

2025 年度

# 東京家政大学大学院

## 学生募集要項

人間生活学総合研究科

修士課程 児童学児童教育学専攻  
健康栄養学専攻  
造形学専攻  
英語・英語教育研究専攻  
臨床心理学専攻  
教育福祉学専攻

博士課程 人間生活学専攻

# 東京家政大学大学院

募集人員（男女共学）

研究科	課程	専攻	募集人員
人間生活学総合研究科	修士	児童学児童教育学	5
		健康栄養学	5
		造形学	4
		英語・英語教育研究	4
		臨床心理学	8
		教育福祉学	4
	博士	人間生活学	3

造形学専攻

衣料管理士 専修 資格養成校

臨床心理学専攻

日本臨床心理士資格認定協会 第1種指定大学院  
公認心理師受験資格対応

## 個人情報の取り扱いについて

- ① 東京家政大学大学院では、出願に際して、得られた住所・氏名その他個人情報は入試関連業務に限定して使用し、お預かりした情報は適切・安全に管理いたします。
- ② 出願書類を提出いただいたことにより、上記事項を理解し、同意していただいたものとして取り扱わせていただきます。

# 目 次

## I. 2025年度東京家政大学 大学院入試

### A. 人間生活学総合研究科 各専攻共通事項

1 試験日程, 出願関係, 合格発表・入学手続 等	1
入学検定料支払い方法	3
2 納入金	4
3 奨学金	5
4 入学辞退に伴う学費の返還について	5
5 東京家政大学大学院 長期履修学生制度	6

### B. 募集人員・出願資格・試験科目・内容及び試験時間

1 人間生活学総合研究科修士課程 一般入試	8
2 人間生活学総合研究科修士課程 社会人特別入試	9
3 人間生活学総合研究科博士課程 一般入試	10
4 人間生活学総合研究科博士課程 社会人特別入試	11

## II. 東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科の概要

### A. 概要

1 大学院の目的	13
2 研究科設置の趣旨	13
3 研究科の目的	15
4 研究科の構成と収容定員	15
5 修業年限・長期履修学生	15
6 課程の修了要件	16
7 学位の授与	16
8 各専攻の目的	16
9 アドミッションポリシー (入学者受入方針)	17
10 カリキュラムポリシー (教育課程編成方針)	21
11 ディプロマポリシー (学位授与方針)	24
12 教職課程の履修	27
13 衣料管理士専修 (造形学専攻)	28
14 臨床心理士・公認心理師 (臨床心理学専攻)	29
15 大学院生研究助成制度	31
16 東京家政大学大学院の院生に関する出産・育児休学取扱内規	32
17 大学院生の学会発表, 展覧会開催	33

B. 令和6（2024）年度教育課程表	
1 修士課程	36
(1) 児童学児童教育学専攻	36
(2) 健康栄養学専攻	38
(3) 造形学専攻	40
(4) 英語・英語教育研究専攻	42
(5) 臨床心理学専攻	43
(6) 教育福祉学専攻	44
2 博士課程	45
(1) 人間生活学専攻	45
3 大学院共通科目（修士課程・博士課程）	46
Ⅲ. 東京家政大学板橋キャンパス配置図・大学院事務窓口	47

個人情報の取り扱いについて	表紙裏
板橋キャンパスへのアクセス	裏表紙裏

# I . 2025年度東京家政大学 大学院入試

# I. 2025年度 東京家政大学 大学院入試

## A. 人間生活学総合研究科 各専攻 共通事項

### 1 試験日程, 出願関係, 合格発表・入学手続 等

1期・2期入試日程

入試区分：一般入試、社会人特別入試とも

	1期入試		2期入試	
	修士	博士	修士	博士
試験日	2024年 10月28日(月)	2024年 11月3日(日・祝)	2025年 2月4日(火)	2025年 2月9日(日)
入学検定料 支払期日	2024年10月 3日(木) 9:00 ~ 10月14日(月・祝) 15:00		2025年1月10日(金) 9:00 ~ 1月20日(月) 15:00	
出願期間	2024年10月9日(水) ~ 10月15日(火)		2025年1月15日(水) ~ 1月21日(火)	
	出願方法：郵送			
合格発表	2024年 10月31日(木)	2024年 11月11日(月)	2025年 2月7日(金)	2025年 2月14日(金)
	発表方法：本人宛合否通知書を発送および、Webにて発表			
入学手続 期 間	2024年11月4日(月) ~ 11月11日(月)	2024年11月15日(金) ~ 11月22日(金)	2025年2月11日(火・祝) ~ 2月18日(火)	2025年2月17日(月) ~ 2月25日(火)
	手続き期間内に入学手続きをしない場合は入学を許可しない。			
試験会場	東京家政大学 板橋校舎 (試験当日の試験会場は、受験票に記載する) 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1 TEL 03-3961-3473 FAX 03-3961-5260			
入学検定料	35,000円 (別途手数料は自己負担)			
出願手続 注意事項	(1) 各専攻志願者は、出願前に大学院事務に相談の上、希望研究分野の指導教員の研究室訪問を行い、研究指導の了解を得た上で出願してください。 (2) 出願期間の前に入学検定料支払い期間があります。早めの支払いをしてください。 (3) 一度納入した検定料は返還できません。 (4) 修士課程長期履修制度(P6参照)の利用を希望する者は出願時に申し出てください。			

出願書類	修士課程・博士課程全専攻志願者提出書類		
	①	A票 入学志願票 B票 受験票 C票 志願者写真票 (本学所定用紙)	B票 受験票に住所・氏名及び郵便番号を明記し、速達分の切手を貼付してください。 写真は、C票 志願者写真票の写真欄に貼付してください。
	②	卒業(見込)証明書 修了(見込)証明書	修士課程志願者は、大学卒業(見込)証明書 博士課程志願者は、大学院修士課程修了(見込)証明書
	③	成績証明書	複数の大学等を卒業している者は、すべての学校の証明書を提出してください。大学に編入学している者は、編入学前の大学、短大等の証明書も提出してください。
	④	資格・研究発表・ 賞罰等記載用紙 (本学所定用紙)	
	希望者又は専攻によって提出する書類		
	⑤	長期履修学生申出書 (本学所定用紙)	修士課程 長期履修希望者のみ提出。 在職証明等添付。 出願時のみ申請可。
	⑥	研究計画書 (本学所定用紙)	修士課程 全専攻提出。 次の2点を含むこと。 1) 卒論要旨または今までの研究の内容 2) 入学後の研究計画(大学院で研究したいこと)
	⑦	勤務・社会的活動 経験の履歴 (本学所定用紙)	臨床心理学専攻 社会人特別入試志願者のみ提出。
	⑧	修士論文又はこれに 代わる学術論文	博士課程 人間生活学専攻のみ提出。 修士の学位授与見込みの者においては提出予定論文要旨を含む。
	⑨	希望研究課題	博士課程 人間生活学専攻のみ提出。 題目を明記の上、内容を1,000字程度にまとめて提出してください。書式は任意です。
	外国人志願者の提出書類(出願の前に大学院事務へ必ず問合せること)		
	⑩	最終出身学校長の 推薦書	和訳を添付してください。
⑪	日本語能力証明書	外国人日本語能力試験1級成績通知書 この試験を受けていない者は「日本留学試験」の「日本語」を受験してください。	
⑫	在日保証書 (本学所定用紙)		
⑬	在留カード(元:外国人登録票) 住民票	在留資格、期間が記載された区役所等発行の証明書を提出してください。	

※各種証明書等は、原則として3ヶ月以内に取得したものを提出してください。

※④⑤⑥⑦⑫は大学院ホームページからダウンロードできます。

# 東京家政大学大学院

## コンビニエンス・クレジットカードでの入学検定料支払方法

Step  
1

**Web申し込み** 必要事項を入力し、支払いに必要な番号を取得してください。






東京家政大学大学院HP→「入試情報」へアクセス



**URL** <https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/graduate/>

Step  
2

**お支払い方法** コンビニエンスストア、クレジットカードのいずれかでお支払いください。

コンビニエンスストア		現金支払い		
コンビニ設置のATMは利用できません。コンビニでは現金のみの取扱いとなります。				
<p>ローソン・ミニストップ LAWSON </p> <p><b>[Loppi]</b></p> <p>[各種番号をお持ちの方]を選択</p> <p>[受付番号(G桁)]を入力し、[次へ]ボタンを押す</p> <p>お申込み時に登録した電話番号を入力し[次へ]を押す</p> <p>内容確認後、「了解」ボタンを押す</p> <p>端末から出力された申込券を持ってレジでお支払い</p>	<p>ファミリーマート </p> <p><b>[Famiポートまたはマルチコピー機]</b></p> <p>[代金支払い]を選択</p> <p>Famiポート[各種番号をお持ちの方はこちら]マルチコピー機[番号入力]</p> <p>Famiポート[企業コード・注文番号]を入力 マルチコピー機[第1番号・第2番号]を入力</p> <p>端末から出力された申込券を持ってレジでお支払い</p>	<p>デイリーヤマザキ </p> <p><b>[レジへ]</b></p> <p>レジで「オンライン決済」を申し込む</p> <p>レジ画面で決済番号を入力</p> <p>内容確認後、レジでお支払い</p>	<p>セイコーマート </p> <p><b>[レジへ]</b></p> <p>レジで「インターネット支払い」と伝える</p> <p>お客様側のレジ画面にて[受付番号][確認番号]を入力</p> <p>支払内容の確認画面が表示</p> <p>OKを押してお支払い</p>	<p>セブンイレブン </p> <p><b>[レジへ]</b></p> <p>店員の方へ「インターネット支払い」をする旨を伝え、「払込票番号」を伝えます。発行した「払込票」を渡しても構いません。</p> <p>お支払い</p>

### クレジットカード



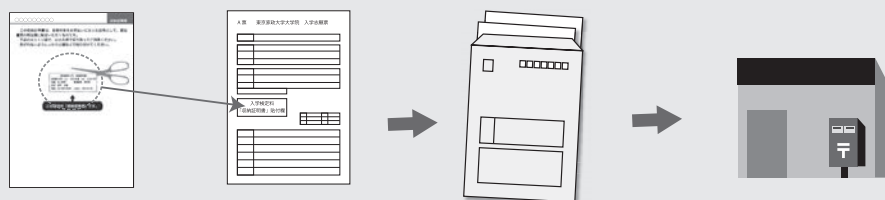
VISA, Master, JCB, American Express, Diners

※カードの名義人は受験生本人でなくとも構いません

Step  
3

## 出願

支払完了後、マイページにアクセスし「収納証明書」を印刷して切り取り、入学志願票の所定欄に貼付。入試要項を確認して出願書類を準備し、出願期間内に郵送してください。



- 各入試の支払期間をご確認のうえ、締切に間に合うよう十分に余裕をもってお支払いください。
- 一度お支払いされた入学検定料は、一切返金できませんのでご注意ください。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問い合わせください。



## 2 納入金（2024年度）（財務部経理課へ納付）

### (1) 入学時納入金

①（標準修業年限在学生 修士2年 博士課程3年）入学時納入金

納入金項目	金額	備考
入 学 金	150,000円	本学卒業生は入学金免除
授業料（前期分）	330,000円	年額660,000円
施設設備維持充実費 （前期分）	100,000円	年額200,000円
後 援 会 費	25,000円	入会金15,000円，年会費10,000円 （本学卒業生は年会費のみ）
合 計	605,000円	本学卒業生の入学時納入金は440,000円

②（長期履修学生 修士3年コース）入学時納入金

納入金項目	金額	備考
入 学 金	150,000円	本学卒業生は入学金免除
授業料（前期分）	220,000円	年額440,000円
施設設備維持充実費 （前期分）	70,000円	年額140,000円（3年目は，年額120,000円）
後 援 会 費	25,000円	入会金15,000円，年会費10,000円 （本学卒業生は年会費のみ）
合 計	465,000円	本学卒業生の入学時納入金は300,000円

③（長期履修学生 修士4年コース）入学時納入金

納入金項目	金額	備考
入 学 金	150,000円	本学卒業生は入学金免除
授業料（前期分）	165,000円	年額330,000円
施設設備維持充実費 （前期分）	50,000円	年額100,000円
後 援 会 費	25,000円	入会金15,000円，年会費10,000円 （本学卒業生は年会費のみ）
合 計	390,000円	本学卒業生の入学時納入金は225,000円

### (2) 入学後の学費（後期分）

納入金項目	金額
授 業 料	標準年限：330,000円 長期3年：220,000円 長期4年：165,000円
施設設備維持充実費	標準年限：100,000円 長期3年：70,000円 長期4年：50,000円
実験実習費等経費 （後期に納付） （標準，長期共通）	児童学児童教育学専攻50,000円，健康栄養学専攻65,000円， 造形学専攻60,000円 英語・英語教育研究専攻35,000円， 臨床心理学専攻／教育福祉学専攻60,000円， 人間生活学専攻50,000円

### 3 奨学金

日本学生支援機構奨学金

2024年度貸与月額：下記種別，金額から選択，申請し，選考のうえ貸与されます。

第一種（無利子）修士課程50,000円・88,000円，博士課程80,000円・122,000円

第二種（有利子）修士，博士全課程50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円

渡辺学園給付奨学金

渡辺学園三木奨学金，後援会奨学金，石川梅子（むめ）奨学金等

### 4 入学辞退に伴う学費の返還について

2025年度入試合格者で入学時納入金を完納した者が入学を辞退する場合には，入学辞退・学費返還の手続を行うことにより納入学費等の一部を返還します。

- (1) 返還する学費等は，2025年度授業料（納入分），施設設備維持充実費（納入分），後援会費とします。
- (2) 入学辞退・学費返還の手続は以下のとおりとします。

下記の①～⑦を記載・捺印した入学辞退・学費返還願（様式は任意）を作成し，「入学金等受領書（本人控）」を同封の上，封筒表面に「学費返還手続き」と朱書し，書留で東京家政大学大学院事務に郵送してください。なお，振込口座名義は本人または保証人とします。

- ①氏名（捺印）    ②生年月日    ③合格専攻    ④受験番号    ⑤入学辞退理由
- ⑥返還金振込希望金融機関名・支店名及び預金種目・口座番号と名義（フリガナ）
- ⑦保証人氏名（捺印）・住所・連絡先電話番号

- (3) 返還願提出期限は，2025年3月30日〔当日消印有効〕までとします。
- (4) 返還金は，2025年4月中旬頃「学校法人渡辺学園」名で指定金融機関に振込みます。

## 5 東京家政大学大学院 長期履修学生制度

(資格)

○長期履修学生を志願できる者は、本学大学院修士課程に入学予定の者で、次の各号の一に該当し、2年の標準修業年限での修業が困難な者で、3年または4年の修業年限を希望する者とする。

- (1) 職業を有し就業している者  
(自営業及び臨時雇用(単発的なものを除く)を含む。)
- (2) 家事, 育児, 介護等の事情を有する者
- (3) 教育免許状取得希望者
- (4) その他研究科委員会で相当と認められた者

(授業料等)

○長期履修学生の授業料等は、通常の大学院修士課程の授業料等の年額を3年または4年で納入する。(詳細は別表参照。)

(出願時期, 志願手続)

○長期履修学生を志願する者は、大学院出願時に他の出願書類とともに下記の書類を提出する。  
出願期間以降、長期履修学生の志願はできない。

- (1) 長期履修学生申出書(大学院ホームページよりダウンロード)
- (2) 職業を有している者は在職証明書または在職が確認できる書類
- (3) その他研究科委員会で必要とされた書類

(履修期間の変更)

○長期履修学生の履修期間の変更は原則として認めない。

ただし、特別な事情がある場合、在学中1回に限り、1年次の1月末までに変更を申請し、研究科委員会で承認された場合、履修期間の変更ができる。

(履修期間変更後の授業料等)

○履修期間変更後の授業料等の年額は、別表を参照。

別表 東京家政大学大学院 長期履修学生授業料等年額

単位：円

学生区分	在学年数	学年	授業料 (年額)	施設維持充実費 (年額)
長期学生 (3年コース)	3	1	440,000	140,000
		2	440,000	140,000
		3	440,000	120,000
長期学生 (4年コース)	4	1	330,000	100,000
		2	330,000	100,000
		3	330,000	100,000
		4	330,000	100,000
変更長期学生 (3→4)	4	1	400,000	140,000
		2	300,000	90,000
		3	300,000	90,000
		4	280,000	80,000
変更長期学生 (3→2)	2	1	440,000	140,000
		2	880,000	260,000
変更長期学生 (4→3)	3	1	330,000	100,000
		2	500,000	150,000
		3	490,000	150,000
変更長期学生 (4→2)	2	1	330,000	100,000
		2	990,000	300,000

## B. 募集人員・出願資格・試験科目・内容及び試験時間

### 1 人間生活学総合研究科修士課程 一般入試

#### (1) 募集人員 (男女共学)

専攻	募集人員
児童学 児童教育学	5名
健康 栄養学	5名
造形学	4名
英語・英語教育研究	4名
臨床心理学	8名
教育福祉学	4名

#### (2) 出願資格 各専攻共通

下記の(1)～(4)いずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び2025年3月大学卒業見込の者
- (2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) その他本学大学院研究科委員会において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

#### (3) 試験科目・内容及び試験時間

時間	9:10～10:50	11:10～12:10	13:00～
専攻	試験科目	外国語 ※2	面接 ※3
児童学 児童教育学	専門科目 ※1	英語	面接 (臨床心理) 14:00～
健康 栄養学	・保育学 ・保育実践学 ・育児支援学 ・子ども臨床学 ・教育実践学 ・学校教育学 から2科目選択 (1科目は指定科目)		
造形学	・被服科学 ・被服造形学 ・服飾文化史 ・服飾デザイン・色彩 ・美術史 ・デザイン史 ・工芸論 ・造形表現論 から2科目選択 (1科目は指定科目)		
英語・英語教育研究	・英文学 ・米文学 ・英語学 ・英語教育学 から1科目選択		
臨床心理学	臨床心理学領域から出題		
教育福祉学	・心理学 ・社会福祉学 ・教育学 から1科目選択		

※1. 児童学児童教育学専攻, 健康栄養学専攻, 造形学専攻の専門科目は, 研究指導予定の教員が指定する研究指導を受ける予定分野の1科目2問と, あらかじめ選択する分野の1科目2問を解答する。英語・英語教育研究, 教育福祉学専攻の選択科目は, 研究指導予定の教員と相談のうえ, 決定する。

※2. 児童学児童教育学専攻の外国語は2問中2問を, 健康栄養学専攻, 造形学専攻の外国語は3問中2問を解答する。英語・英語教育研究専攻を除く各専攻では, 英語の辞書は貸与します。

※3. 臨床心理学専攻を除く各専攻の面接試験は, 13:00から実施します。  
臨床心理学専攻の面接試験は, 専門科目・外国語の筆記試験に合格した者に対して, 14:00から実施します。

## 2 人間生活学総合研究科修士課程 社会人特別入試

### (1) 募集人員（男女共学）

専攻	募集人員
児童学 児童教育学	若干名
健康 栄養学	
造形学	
英語・英語教育研究	
臨床心理学	
教育福祉学	

### (2) 出願資格

下記の (1) ~ (3) いずれかに該当する者。

- (1) 大学を卒業後、2年以上勤務・社会的経験のある者
- (2) 大学を卒業した者及び2025年3月に大学卒業見込の者で、入学時に27歳以上の者
- (3) その他本学大学院研究科委員会において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で2年以上勤務・社会的経験のある者又は入学時に27歳以上の者

### (3) 試験科目・内容及び試験時間

専攻	時間	9:10 ~ 10:50	11:10 ~ 12:10	13:00 ~
児童学児童教育学, 健康栄養学, 造形学			小論文	面接 ※2 (臨床心理) (14:00~)
英語・英語教育研究, 教育福祉学			小論文	
臨床心理学		専門科目・英語 ※1 (臨床心理学領域から出題する)	小論文	

※1. 英語の辞書は貸与します。

※2. 臨床心理学専攻を除く各専攻の面接試験は、13:00から実施します。  
臨床心理学専攻の面接試験は、14:00から実施します。

### 3 人間生活学総合研究科博士課程 一般入試

#### (1) 募集人員 (男女共学)

専攻	募集人員
人間生活学	3名

#### (2) 出願資格

下記の (1) ~ (3) いずれかに該当する者

- (1) 修士の学位を有する者及び2025年3月大学院修士課程修了見込の者
- (2) 外国において修士に相当する学位を授与された者
- (3) その他本学大学院研究科委員会において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

#### (3) 試験科目・内容及び試験時間

専攻 \ 時間	9:10 ~ 10:10	10:20 ~ 12:10
人間生活学	英語 ※1	面接 ※2

※1. 研究希望分野からの専門問題1題及び共通問題2題のうち1題の合計2題を選択する。  
英語の辞書は貸与します。

※2. 修士論文又はこれにかわる学術論文(論文要旨)、希望研究課題にもとづくプレゼンテーション(15分程度)及び質疑。プレゼンテーション用のデジタルデータ資料はUSBに入れて、試験3日前までに、大学院事務に提出してください。

## 4 人間生活学総合研究科博士課程 社会人特別入試

### (1) 募集人員（男女共学）

専攻	募集人員
人間生活学	若干名

### (2) 出願資格

下記の（1）～（3）いずれかに該当する者

- (1) 修士の学位を有し，2年以上勤務経験のある者
- (2) 修士の学位を有する者で，入学時に29歳以上の者
- (3) その他本学大学院研究科委員会において，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で2年以上勤務経験のある者又は入学時に29歳以上の者

### (3) 試験科目・内容及び試験時間

専攻	時間	9：10～10：10	10：20～12：10
人間生活学		小論文	面接 ※

※ 希望研究課題にもとづくプレゼンテーション（30分程度）及び質疑。プレゼンテーション用のデジタルデータ資料はUSBに入れて，試験3日前までに，大学院事務に提出してください。



## Ⅱ. 東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科の概要

## A. 概 要

### 1 大学院の目的

東京家政大学大学院は、建学の精神に則り、学部の教育課程を基礎とし、高度にして専門的な学術の理論及び応用を研究教授し、その深奥をきわめ、広い視野に立って高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、広く社会と文化の発展に寄与することを目的とする。

### 2 研究科設置の趣旨

東京家政大学は、明治14年に東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）の教師であった渡邊辰五郎が、「時代の要請に応え、民衆の必要を基盤とし、女性の自主自律を願い、新しい時代に即応した学問技芸に秀でた師表となる有能な女性を育成する」ことを教育理念として、本郷湯島の地に創設した和洋裁縫伝習所をその起源に持つ。和洋裁縫伝習所に起源を持つ学校法人渡辺学園は現在、大学院、大学、短期大学部、附属女子中学校、女子高等学校、幼稚園、ナースリールーム併せて7,000人を超える学生・生徒・園児を擁する学園となっている。本学園は令和6年度には創立143周年を迎え、戦後1949年に大学が設置認可されてからも70余年が過ぎている。

家政学研究科は、平成元年に修士課程からスタートし、平成5年に博士課程を設置し、文字通り家政系大学の最高学府に相応しい内容を整えた。その間多くの修了生を輩出している。

家政学研究科は家政学部児童学科、栄養学科、服飾美術学科を基礎として、食物栄養学専攻、被服造形学専攻、児童学専攻を柱として修士課程を築き、博士課程は家政学を核としながらさらにフィールドを広げ、人間生活全般にかかわる探求へと発展させた人間生活学専攻として、それぞれを開設してきた。

家政学研究科が開設され30余年を過ぎており、基礎となる家政学部は、服飾美術学科美術専攻が、生活美術全般を中心とした造形表現学科に発展し、児童学科児童教育専攻は、学校教育においてより質の高い教育力・実践力・教科教育の力を伸ばす教員養成を目的として児童教育学科を設置する方向へ発展した。また、栄養学科理科コースも環境情報学科から環境教育学科へと改組転換を図った。栄養学科も、平成14年に栄養士法が改正され、管理栄養士国家試験が施行されたことに伴いカリキュラムを一新し、栄養士・管理栄養士の専門資質の向上に対して全国レベルでの改革が行われた。何れも、従来の家政学をさらに深化させ、生命と生存に根差した、人の一生と生活全般にかかわる学際的探求課題へと裾野を広げてきている。

一方、文学部においても、人文学部へと名称変更を行い、心理教育学科は時代の要請に応じて心理臨床、生涯学習及び社会福祉の三分野の充実を図ってきたが、それぞれの学問領域の専門化、高度化に対応するため、心理カウンセリング学科と教育福祉学科の2学科に発展改組を行った。また、英語英文学科は英語教育を中心にしながら、コミュニケーション能力育成をより重視

した教育を目的としたカリキュラムとし英語コミュニケーション学科へと名称変更を行った。

文学研究科は、平成8年英語英文学専攻及び心理教育学専攻を設置し、平成12年には財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認可する第1種指定大学院として臨床心理士を養成するため、心理教育学専攻に臨床心理学コース・心理教育学コースを設定したが、その後、従来の文学研究から、人文全般に関する学際的探求課題への展開がなされてきた。

本学では、以上のように家政学をさらに深化させつつ、生命と存在に根ざした人の一生と生活全般にかかわる課題探求へと裾野を広げてきている家政学研究科と、従来の文学研究から人文全般に関する学際的探求課題へと展開が進んできた文学研究科とを統合し、人間生活学総合研究科の1研究科とし、修士課程6専攻と博士課程の人間生活学専攻を設置することとした。

人間生活学総合研究科は、家政学と人文学の基盤を踏まえつつ、生活学の内容を従来の内向きの「家庭」という枠に囚われることなく、衣、食と健康、福祉から心と保育、教育までを包括した人間の生命活動と生生活動の探求を深めると共に、グローバル化し、文化的な質の高い生活技術と生活意識を幅広く探求するものと捉えなおすものである。このように2研究科の統合によって、人間生活学総合研究科はこれまでの2研究科内の専門相互の学びあいも可能となり、広く複眼的な視野を持つ有為な人材を養成することが可能となる。また、修士課程の専攻名称は基礎学部の名称と対応しており、学部と大学院の継続性を明確に示すとともに、新たな今日的課題に応えられるように養成する人材像を明確にし、学修システムの弾力化を図ることによって、学生・社会人のニーズに幅広く応えるものとなっている。

本学の2代目学長青木誠四郎は、戦後の文部省にあって戦後教育の復興に力を尽くし、その後本学に着任した。青木誠四郎に“実際家は日々の事に追われて研究に遑（いとま）なく、研究者は現実を見ず、現状を知らずして机上に理論を楽しむといった風では好ましくない。畢竟、学は協同事業でなくてはならない”という言葉がある。研究のための研究でなく、本学は所謂大学院大学を目指すのではなく、「現場に学び、共に研究し、研究成果を現場に生かせるように！」を本大学院の基本理念としたい。そのためには、研究能力と課題解決能力を合わせ持ち、実社会でリーダーとなれる人材育成を目指すと共に、現職社会人を広く迎え入れられるよう、さらに段階を踏んで体制を整えていく計画である。

これらを踏まえ平成24年4月から、人間生活学総合研究科修士課程に、児童学児童教育学専攻（入学定員5名）、健康栄養学専攻（入学定員5名）、造形学専攻（入学定員4名）、英語・英語教育研究専攻（入学定員4名）、臨床心理学専攻（入学定員8名）、教育福祉学専攻（入学定員4名）を、博士課程に人間生活学専攻（入学定員3名）を設置し、大学院のさらなる教育・研究の向上に取り組むこととした。

### 3 研究科の目的

人類が普遍に持つ、衣・食と健康・福祉から、心と保育・教育までを包括した人間の生命活動と生生活動の探求を深めると共に、グローバル化し、文化的な質の高い生活技術と生活意識を幅広く探究し、それぞれの専門性を深めると共に、新たな今日的課題に応えられる広く複眼的な視野を持つ有為な人材の養成を目的とする。

### 4 研究科の構成と収容定員

東京家政大学大学院 (Graduate School of Tokyo Kasei University)  
人間生活学総合研究科 (Graduate School of Humanities and Life Sciences)

課程	専攻	入学定員	収容定員
修士課程	児童学児童教育学専攻 (Master's Program in Child Care, Education and Science)	5	10
	健康栄養学専攻 (Master's Program in Health and Nutrition)	5	10
	造形学専攻 (Master's Program in Clothing & Art)	4	8
	英語・英語教育研究専攻 (Master's Program in English Language and Culture)	4	8
	臨床心理学専攻 (Master's Program in Clinical Psychology)	8	16
	教育福祉学専攻 (Master's Program in Education and Social Welfare)	4	8
博士課程	人間生活学専攻 (Doctoral Program in Human Life Sciences)	3	9
合計		33	69

### 5 修業年限・長期履修学生

- (1) 本学大学院の修士課程の修業年限は2年、博士課程の修業年限は3年とする。
- (2) 修士課程において、学生が職業を有している等の事情により、前項に定める修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを希望し認められた長期履修学生の修業年限は3年又は4年とする。
- (3) 大学院に在学できる期間は、休学期間を除き修士課程は4年間、博士課程は6年間とする。
- (4) 修士課程の長期履修学生の在学年数は、修業年数が3年の場合は4年を、修業年数が4年の場合は5年を超えることはできない。

## 6 課程の修了要件

- (1) 修士課程の修了要件は、大学院に2年以上在学し、履修授業科目について30単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた後、修士論文の審査又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。
- (2) 博士課程の修了要件は、大学院に3年以上在学し、所定の授業科目について6単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

## 7 学位の授与

本学大学院研究科において、所定の課程を修了した者に対しては次の学位を授与する。

人間生活学総合研究科	児童学児童教育学専攻	修士課程	修士(家政学)
	健康栄養学専攻	修士課程	修士(健康栄養学)
	造形学専攻	修士課程	修士(家政学)
	英語・英語教育研究専攻	修士課程	修士(文学)
	臨床心理学専攻	修士課程	修士(心理学)
	教育福祉学専攻	修士課程	修士(学術)
	人間生活学専攻	博士課程	博士(学術)

## 8 各専攻の目的

- (1) 児童学児童教育学専攻は、子どもの豊かな人格を育て、身体的、精神的かつ社会的に健全に育成するための学究を行い、高度な研究教育に携わることのできる人材および児童学・児童教育学における実践的課題を探究・研究し解決できる高度な専門知識と方法論を修得した人材の養成を目的とする。
- (2) 健康栄養学専攻は、フードサイエンスとライフサイエンス、ヘルスサイエンスの分野における、高度の知識、技能を教授して、人の健康維持、生活習慣病の予防、老化のメカニズムなどの諸問題の解決に役立つような研究能力と応用力を有する人材および栄養士・管理栄養士の資格を生かした高度な専門的能力のある職業人の養成を目的とする。
- (3) 造形学専攻は、服飾美術と造形表現を融合させたカリキュラムにより、服飾美術分野では自然・社会環境や産業技術などの、衣服の美的・機能的側面に対して起こりうる新しいニーズに対し、産業や教育などの分野で対応できる高度な専門性と実践力を備えた人材の育成を目的とする。造形表現分野では生活美術の追究を通して、生活を様々な面で豊かに



する造形表現活動・文化活動を支える能力を有する人材の育成を目的とする。

- (4) 英語・英語教育研究専攻は、国際化時代に対応できる実践的な英語コミュニケーション能力を養成し、英語文学及び文化の研究並びに英語、英語教育の研究を深め、視野の広い総合力を持った高度な専門教育を行うことのできる人材の養成を目的とする。
- (5) 臨床心理学専攻は、複雑化した社会における人間関係の諸問題に対応する総合的な力を育成し、臨床心理士及び公認心理師としての高度な専門知識や技術を持ち、医療・教育・産業・司法等の社会のあらゆる領域で柔軟に対応し、適切な援助、介入及び研究のできる人材の養成を目的とする。
- (6) 教育福祉学専攻は、学校や地域社会の複雑化・複合化した諸問題について、生涯学習・社会教育、社会福祉学、心理学についての高度な専門知識や技術を修得し、人間関係を調整し、社会資源を有効に使い、問題解決を創造的に行うことができる高度専門的職業能力を備えた人材の養成を目指す。
- (7) 人間生活学専攻は、博士課程に相当し、人間生活をめぐる生活科学、社会科学、心理臨床学等の分野において、総合的、学際的視野にたつ人材を養成することを目的とし、自立した研究者養成のみならず確かな教育能力と高度な研究能力をもつ大学教員の育成をも図る。

## 9 アドミッションポリシー（入学者受入方針）

### 東京家政大学大学院

東京家政大学大学院は、平成元年に家政学研究科食物栄養学専攻並びに被服造形学専攻（修士課程）を開設し、平成4年より児童学専攻（修士課程）、同5年より人間生活学専攻（博士課程）、同8年には文学研究科英語英文学専攻、心理教育学専攻（修士課程）を設置し現在まで多くの修了生を送り出している。

平成24年度から、これまでの家政学研究科と文学研究科を人間生活学総合研究科に統合し、児童学児童教育学専攻、健康栄養学専攻、造形学専攻、英語・英語教育研究専攻、臨床心理学専攻、教育福祉学専攻（以上 修士課程）と、人間生活学専攻（博士課程）を設置した。

### 大学院の教育目的

本学大学院は、建学の精神に則り、大学での教育課程を基礎とし、高度にして専門的な学術の理論及び応用を研究教授し、その深奥をきわめ、広い視野に立って高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、広く社会と文化の発展に寄与することを目的にして、①学術研究の高度化と優れた研究者の養成、②高度専門職業人の養成、③教育研究を通じた国際貢献、の3点を共通の目標としている。

### 大学院のアドミッションポリシー

本学大学院は、東京家政大学の建学の精神と生活信条に基づき次のような人を求めている。

- ・自主自律の精神を持ち、人間の生活に関わる専門性の高い学術・実践・応用力を身につけ社会に貢献し活躍することを志す人
- ・現代の人間の生活に関わる諸問題に対し柔軟に対応し解決する高い知性と能力を修得し、社会に役立ちたいと努力する人
- ・世界的な広い視野を持ち、自己の幸福と社会の幸福とを合わせ願い行動することのできる心の豊かな人

## ○研究科の人材養成・教育目的およびアドミッションポリシー

人間生活学総合研究科は、家政学部、栄養学部、児童学部と人文学部の内容と実績を基礎として、修士課程である児童学児童教育学専攻、健康栄養学専攻、造形学専攻、英語・英語教育研究専攻、臨床心理学専攻、教育福祉学専攻及び博士課程である人間生活学専攻において、大学院の教育目的にそった教育を行い高度な専門知識を持ち、それを土台とした研究能力、実践力を持つ人を育てることを人材養成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・児童学児童教育学専攻、健康栄養学専攻、造形学専攻、英語・英語教育研究専攻、臨床心理学専攻、教育福祉学専攻及び人間生活学専攻において修得した、高度でより専門的な知識ならびに資格・免許を活かして各方面で活躍したい人
- ・専門知識を学ぶだけでなく、それを土台に自分自身で考えさらに発展・深化させようとする人
- ・人間生活に関わる諸問題に対し、指導的立場で適切に対処し、実践・応用できる能力を涵養したい人
- ・知識だけではなく、その場に応じた柔軟な対応ができる実践力を身につけ、社会に貢献しようとする人

## ○修士課程 各専攻の入学受入方針（アドミッションポリシー）

### \*児童学児童教育学専攻

児童学児童教育学専攻では、現代社会における乳幼児、児童に関する問題を探究する研究者を育成するとともに、保育所、幼稚園、小学校などにおける研究的実践者を養成することを人材育成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・乳幼児や児童の問題に広く関心を持ち、創造性豊かな研究をする意欲を持った人
- ・保育、教育の現場において、乳幼児や児童の幸せや育ちを見据え、研究的実践の創造を志す人
- ・乳幼児や児童をめぐる社会の多様なニーズに対応できる専門性を磨く志を持つ人
- ・幼稚園、小学校の教員として専門性を深め専修免許取得を希望する人

#### \* 健康栄養学専攻

健康栄養学専攻では、摂食前の段階の「食品」から、食品を摂食する生体側の機能を研究し、少子高齢化社会に対応できるような高度専門職業人、教育指導者、研究者を養成する。そして地域住民の保健・医療・福祉の向上に寄与することを人材育成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・管理栄養士・栄養士養成施設における教育・研究に携わりたい人
- ・保健・医療・福祉・介護などの領域で地域栄養活動のリーダーとして活躍したい人
- ・企業や試験・研究機関等において栄養・商品開発等の研究分野に関わりたい人
- ・職業に就きながら、食物栄養に関する実践的な研究を通じて、高度な職業人としての能力を高めたい人

#### \* 造形学専攻

造形学専攻では、被服科学、服飾造形学、服飾デザイン学、メディア表現、表現と社会、美術史、工芸、平面表現、空間表現の各分野において基礎を確実なものとし、高度な専門性を身につけることを人材育成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・専門分野の教育・研究機関や博物館、編集、美術・デザインなどの分野で活躍を希望する人
- ・家庭科教員、美術科教員として専門性を深め専修免許取得を希望する人
- ・家政学の視点から深い専門性と教養を身につけたい人

#### \* 英語・英語教育研究専攻

英語・英語教育研究専攻は、国際化時代に対応できるコミュニケーション能力を養成し、英語圏文学・文化、英語学、英語教育に関する研究を深め、視野の広い総合力を持った人材育成、また英語教員として指導的な役割を果たす人材（小学校の英語教育のコア教員等を含む）を養成することを人材育成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・英語の実践能力を高めその機能を洗練させてより高度な職業人を目指そうとする人
- ・英語英文学作品を研究し、人間、社会、文化、歴史の仕組みについて理解を深めたい人
- ・英語という言語の仕組みやその歴史を体系的に学びたい人
- ・英語教育や言語習得について最新の情報を取り入れながら多角的に研究し、教育の現場で実践・活動したい人
- ・グローバル化によって急速に変化する世界のありように柔軟に対応し、積極的に社会貢献していこうとする好奇心、意欲、情熱を持つ人

#### \* 臨床心理学専攻

臨床心理学専攻では、心理カウンセリング学科の教育を基礎にして、さらに高度な専門知識を



持ち、それを土台とした研究能力及び医療・教育・産業・司法などの分野における臨床実践力を  
持つ臨床心理士・公認心理師を育てることを人材養成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・ 基礎的な心理学の知識をベースに、高度の臨床心理学的なアセスメント、心理面接などの技法を修得できる学力、能力のある人
- ・ 科学的な思考と臨床的態度を身につけ、医療・教育・産業・司法などさまざまな領域で適切な援助、介入を行う意欲のある人
- ・ 心の問題や不適応行動のメカニズムや援助の在り方について研究したい人

#### \*教育福祉学専攻

教育福祉学専攻では、生涯学習・社会教育分野、社会福祉分野、心理学分野を総合的に学び、  
地域社会や学校にあって人を支援するネットワークやチームワークのリーダーとして活躍できる  
人材を育てることを人材養成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・ 生涯学習・社会教育、社会福祉、心理学の各分野を幅広く学び、人の支援についての高度の研究をしたい人
- ・ 地域社会や学校で人を支援するネットワークやチームワークのリーダーとして実践したい人
- ・ 社会福祉や社会教育の分野ですでに仕事についている方で、スキルアップをはかりたい人

### ○博士課程の入学受入方針（アドミッションポリシー）

#### \*人間生活学専攻

人間生活学専攻では、学部及び修士課程における教育を基盤とし、一層高度な教育を行うこと  
によって、人間生活に関わる複雑な事象を理解し、真理を見出す能力を涵養することを目的とし  
ている。このような教育を通じて、現在の多様化、高度化する社会の要請に応えられる人材、当  
該専門分野の次代を担う人材を育てることを人材養成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・ 人間生活に関連した分野の研究に強い熱意を有する人
- ・ 関連分野の高度な学識の修得に強い熱意を有する人

## 10 カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

大学院のカリキュラムは、大学院生が学位授与規程に相応しい能力を身につけられる学修・研究ができるために、コースワークとリサーチワークの観点から構成されている。

コースワークの特徴としては、新入生フレッシュマンセミナーにおいて各教科の授業の概要を説明し、懇談する機会を設けている。またフレッシュマンセミナーの実質化のため、大学院の教育・研究環境の特徴と大学院での学修、研修、フィールドワーク、充実した実りある大学院生活を送るための心構え、研究へのアプローチ法などをテーマとした、数名の教授と研究科長によるレクチャーが行われている。大学院共通科目として大学院に必須の基礎学力を教授する「アカデミック・ライティング」「論文作成のための統計解析入門」「プレゼンテーション論」を設け、単位認定後も大学院修了まで相談に応じている。大学院においては、視野の広い精深な学識を得るために専攻分野を超えて8単位まで他専攻の授業科目を履修できるようにしている。カリキュラム構成は全体として、特論（講義）、演習、実験・実習の構成となっており、理論的にも実証的・体験的にも学修できるようになっている。さらに新たな発展が期待できる分野においても、講義科目として開講し、社会の負託に応えられるよう多様な人材育成に対応している。科目の履修については研究指導者が相談に応じ、リサーチ活動と関連した適切な指導を受けることができる。

リサーチワークの特徴としては、入学試験時に研究計画書の提出を求め、面接試験で大学院での研究の抱負を尋ね、質疑する。入学後には、指導教員のもと、詳細な研究計画をたてた上で研究論文題目を提出している。また、論文中間発表においては、研究活動および成果の経過を多くの教員の前で発表し、プレゼンテーション技術と研究内容を深めると共に多様な視点からの批判を受け、指導教員の指導のもと、独善的・独りよがりの研究に陥らぬよう改善・修正できる。研究経過の中で論文題目の変更が必要となった場合は、専攻会議、専攻主任会議での審議を経て研究科委員会で承認し、適切な論文内容とそれを表す論文題目となるよう指導教員がサポートしている。リサーチは、結果を出して終わるのではなく、結果を発表し批判を受けて完成させていくものであり、本大学院は、プレゼンテーションの意義を高めるため学会などの外部での発表経験を重視しており、研究助成制度として必要経費の助成をしている。特別研究指導者には副指導者を認め、複数指導者による研究論文の充実にも努めている。研究機器や研究環境が学内で不十分となった場合は、研究科委員会で承認を受けた後、学外でのリサーチワークとして外部の研究所や研究機関で機器の借用及び個別の研究指導が受けられるようになっている。学位論文の審査においては、複数の副査を置き、予備審査を含む十分な審査期間のもと論文の構成と正確な文章表現なども含めて厳正に確認を行い、発表と質疑応答ならびに口頭試問で審査し、研究科全体の研究科委員会で可否を決定する。

本研究科修士課程は、コースワーク、リサーチワーク共に含めて、修業年限2年に限定せず、就業年限3年と4年の長期履修制度を設けている。また、博士課程は論文の学会誌掲載年限を考慮して、課程修了後1年間の学位授与審査の猶予を設けている。また、出産育児のために学業の継続が困難となった場合は、育児休学制度を設けている。

## ○修士課程の教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

### \*児童学児童教育学専攻

児童学児童教育学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・「保育学」「保育実践学」「育児支援学」「子ども臨床学」「教育実践学」「学校教育学」の6つの区分から幅広く学ぶことにより、深い識見と広い視点にたって児童学、児童教育学の研究をすることができる力を育成するとともに、児童に関わる様々な分野で応用可能な知識を身につける。
- ・児童学、児童教育学の研究分野から、自分の専攻分野を選び、とくに「特別研究」を通して、その分野における研究の計画を作成し、研究をまとめていけるように充実した研究指導を行う。
- ・学校教育の場で、より高度な専門性をもって、幼児および児童の教育を行うことができる能力と技術を身につけるために、幼稚園教諭専修免許と小学校教諭専修免許を取得するための科目を開設する。

### \*健康栄養学専攻

健康栄養学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・カリキュラムにおける分野別区分としてのフードサイエンス分野、ライフサイエンス分野、ヘルスサイエンス分野における各授業科目を履修し、特別研究において、実習・実験および修士論文作成のための研究手法を学ばせる。
- ・専任教員の指導のもと、企業、施設、病院などにおける豊富な実践体験を通じ、実践・応用力を修得させる。
- ・学内学外における研究発表の機会をもうけ、研究能力の向上をめざす。
- ・学校教育の場で、より高度な専門性をもって、家庭科の教育を行うことができる能力と技術を身につけるために、中学校教諭専修免許（家庭）と高等学校教諭専修免許（家庭）を取得するための科目を開設する。

### \*造形学専攻

造形学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・カリキュラムにおける分野別区分として、服飾美術分野と造形表現分野における各授業科目を履修し、服飾美術分野では特別研究において被服科学、服飾造形学、服飾デザイン学等の研究を通じ修士論文作成のための研究手法を学ばせる。また、造形表現分野では特別研究においてメディア表現、表現と社会、美術史、工芸、平面表現、空間表現の各分野の制作希望者においては、作品の課題研究を通じて研究能力の向上をめざす。学会や学外において制作発表の場を設ける。
- ・服飾分野では服飾を科学とファッションの両面からとらえ、豊富な実験・実習を通して実践・応用力を修得させ、アパレル、教育界に高度の専門的知識と技能を持って貢献できる人

材を育てる。

- ・造形表現分野では、作品の制作活動を通して学内学外における発表の機会を設け研究能力の向上をめざす。論文作成志望者に対しては、美術史、造形教育、アートマネジメント等の研究を通じ、修士論文作成のための研究手法を学ばせる。また高度の専門的知識と技能を習得させ、創造性豊かな表現力をもって作家・高度専門職業人として自立した活動をすることができる人材を育てる。
- ・学校教育の場で、より高度な専門性をもって、家庭科及び美術科の教育を行うことができる能力と技術を身につけるために、中学校教諭専修免許（家庭）・中学校教諭専修免許（美術）と高等学校教諭専修免許（家庭）・高等学校教諭専修免許（美術）を取得するための科目を開設する。

#### \* 英語・英語教育研究専攻

英語・英語教育研究専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。具体的な教育内容、授業形態、教育方法などについては、シラバスの「実施形態」、「授業概要」を参照のこととする。

- ・英語に関わる広範囲な分野において、高度な専門知識を身につけさせ、幅広く深い視野に立って高度で独創的な研究を進めるための能力を育成するため、英語・英語文学分野には、言語学系、文学系、文化研究系等の諸科目を設置する。
- ・外国語教育に関わる高度な専門知識を身に付けさせ、幅広く深い視野に立って高度で独創的な研究を進めるための能力を育成するため、英語教育分野には、第二言語習得研究や英語指導理論や教育課程研究に関わる諸科目を設置する。
- ・両分野に共通する、研究論文執筆に必要な高度な英語表現技能を獲得させる。
- ・健全な理論に基づいた適切な研究手続きに従った調査、研究等を計画し実施できる技術と能力を獲得させ、研究成果の発表、さらに修士論文の完成に向けて、専任教員が充実した個別指導を行う。
- ・関心を持つ分野の知識に加え、高度な専門性をもって、学校現場における英語科教育を行うことができる能力と技術を身につけるために、中学校教諭専修免許（英語）と高等学校教諭専修免許（英語）を取得するための科目を開設する。

#### \* 臨床心理学専攻

臨床心理学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・統計学、研究法、認知心理学などに関わる基礎科目の修得および心理臨床学の分野を修得し、幅広く深い視野に立って、高度かつ独創的な研究を行う能力を育成する。
- ・学外及び学内施設における豊富な実践体験を通じ、心理臨床に必要な技法を身に付け、かつ専任教員によるスーパービジョンを受ける。
- ・専攻分野の研究計画を策定し、それを可能にする理論的・実践的研究能力及び研究成果を発表できる能力を身につけさせることを目的として、個別指導を中心とした研究指導を行う。



- ・学校教育の場において、高度な専門性をもって、公民科の教育を行うことができる能力と技術を身につけるために、高等学校教諭専修免許（公民）を取得するための科目を開設する。

#### \*教育福祉学専攻

教育福祉学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・心理学，社会教育・生涯学習，社会福祉に関わる各分野の基礎・中心となる特論科目を履修し，いずれかの分野の専門性を高めると同時に，隣接分野の知識・技術が得られるよう指導する。
- ・関心を持つ分野の知識に加え，幅広く深い視野に立った，高度かつ独創的な研究活動や，実践的な課題解決に向けた検討が行えるよう，研究方法の理解を図り，専門分野の研究計画を作成し，それを可能にする理論的実践的研究能力を身につけさせ，研究発表に向けて個別指導を充実させた研究指導を行う。
- ・学校教育の場において，より高度な専門性をもって公民科の教育を行うことができる能力と技術を身につけるために，高等学校教諭専修免許（公民）を取得するための科目を開設する。

### ○博士課程の教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

- ・人間生活に関わる総合的・学際的研究のために，各分野の専門科目を置く。
- ・各専門分野の研究の集大成として，研究計画に基づいた指導のもとで，本学学位規程に定められた基準の博士論文を課す。

#### \*人間生活学専攻

人間生活学専攻の教育目標を達成するため，以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・修士課程における教育の成果をふまえ，それを一層高度化，深化させるのみならず，広く人間生活を総合科学として捉えることのできる能力の涵養を目的とし，講義，実験などを通じて教育・研究指導を行う。

## 11 ディプロマポリシー（学位授与方針）

### ○研究科の学位授与方針（ディプロマポリシー）

人間生活学総合研究科では，東京家政大学家政学部，栄養学部，児童学部と人文学部での基礎的知識を基盤とし，家政学分野と人文学分野での精深な学識と高度な専門知識を有し，それを基盤に独創的に発展させることができる研究能力と豊かな創造力，応用できる実践力を備えた研究者，教育者，及び専門職業人としての能力を修得し，得られた成果を学会・研究会などで発表し，学位論文，研究成果として明示させたものに，博士（学術）及び修士（家政学），修士（健康栄養学），修士（文学），修士（心理学），修士（学術）の学位を授与する。

## ○修士課程の学位授与方針（ディプロマポリシー）

### \* 児童学児童教育学専攻

児童学児童教育学専攻では、現代社会における乳幼児、児童に関する問題を探究する研究者を育成するとともに、保育所、幼稚園、小学校などにおける研究的実践者を養成することを人材育成及び教育研究上の目的とし、以下の学識・能力を有するに至ったものに修士（家政学）の学位を授与する。

- ・乳幼児や児童の問題に広く関心を持ち、知識を深め、創造性豊かな研究を進めることができる。
- ・保育、教育の現場において、乳幼児や児童の幸せや育ちを見据え、研究的実践の創造に寄与できる。
- ・乳幼児や児童をめぐる社会の多様なニーズに対応できる専門性を身につけている。

### \* 健康栄養学専攻

健康栄養学専攻では、少子高齢化社会に対応できる中央及び地域の保健・医療・教育・福祉の向上に寄与すると共に、我が国の産業の発展に貢献することのできる高度専門的職業人、教育指導者、研究者の養成を目的とし、以下の学識・能力を有するに至ったものに修士（健康栄養学）の学位を授与する。

- ・専門分野における高度な知識・技術を修得し、探究・研究能力及び課題解決能力を有する。
- ・フードサイエンス分野、ライフサイエンス分野、及びヘルスサイエンス分野を広く深く理解し、豊かな専門的能力を修得している。
- ・社会や文化に対する幅広い見識を有するとともに、専攻分野にその見識を活かせる探究・研究課題解決能力が認められる。
- ・管理栄養士・栄養士、地域栄養・食育活動のリーダーとして実地に役立つ実践的指導力が育成されている。

### \* 造形学専攻

造形学専攻では、服飾美術分野（被服科学、服飾造形学、服飾デザイン学）においては、衣服の美的・機能的側面の追究を通して、また造形表現分野（メディア表現、表現と社会、美術史、工芸、平面表現、空間表現）においては生活美術の追究を通して、産業や教育、創作などの場面における有為な人材の養成を目的とし、以下の学識・能力を有するに至ったものに修士（家政学）の学位を授与する。

- ・服飾美術及び造形表現の分野において、高度の専門的知識を修得している。
- ・服飾美術及び造形表現の分野において、高度の実践力、技能を身につけている。

### \* 英語・英語教育研究専攻

英語・英語教育研究専攻では、国際化時代に対応できるコミュニケーション能力を養成し、英語学、英語文学、英語文化に関する研究や、英語教育実践の方法、言語習得理論等の英語教育学

に関する研究能力を有した視野の広い総合力を持った人材の養成を目的として、以下の学識・能力を有するに至ったものに修士（文学）の学位を授与する。

- ・ 高度なコミュニケーション能力、論理的思考、共感的理解力を身につけている。
- ・ 英語の実践的能力を高め、これによって国際的に活躍することが期待できる。
- ・ 英語という言語の仕組みやその歴史を体系的に学んでいる。
- ・ 英語文学作品を研究し、人間、社会、文化、歴史の仕組みについて理解を深めている。
- ・ 英語教育学や言語習得理論の最新の情報を取り入れながら多角的に研究し理解を深めている。
- ・ 研究の成果を生かし、高度職業人として教育の現場で指導的教育実践活動ができる。

#### \*臨床心理学専攻

臨床心理学専攻では、高度かつ独創的な研究をおこなう能力を身につけ、心理臨床に関する理論と知識を駆使して、心理的な問題を抱えた人に対する援助や組織・集団を心理学的に支援することができる実践力を身につけた人材の養成を目的とし、以下の学識・能力を有するに至った者に修士（心理学）の学位を授与する。

- ・ 臨床心理士・公認心理師としての人間性と広い視野を有する。
- ・ 臨床心理士・公認心理師としての必要な理論と実践能力を身につけている。
- ・ 研究成果を学会などで発表し、学術論文として公表できる研究能力を備えている。
- ・ 身につけた専門的知識と総合的判断力を生かして、臨床心理士・公認心理師として活躍できる資質と能力が備わっている。

#### \*教育福祉学専攻

教育福祉学専攻では、高度かつ独創的な研究をおこなう能力を身につけ、生涯学習・社会教育分野、社会福祉分野、心理学分野を総合的に学び、高度な専門知識や技術に精通し、地域社会や学校にあって人を支援するネットワークやチームワークのリーダーとして活躍できる人材の養成を目的とし、以下の学識・能力を有するに至ったものに修士（学術）の学位を授与する。

- ・ 心理学を基礎に、社会教育・生涯学習、社会福祉の現場におけるリーダー（高度専門職業人）としての人間性と広い視野を有する。
- ・ 心理、教育、福祉に関わる現場のリーダー（高度専門職業人）として、必要な理論と実践能力を身につけている。
- ・ 研究成果を学会などで発表し、学術論文として公表できる研究能力を備えている。あるいは、職場等の活躍する場において、問題を発見し、課題を分析し、問題解決に寄与できる知識・技術、課題解決能力を備えている。
- ・ 身につけた専門的知識と総合的判断力を生かして、心理、教育、福祉の現場のリーダー（高度専門職業人）として活躍できる資質と能力が備わっている。

## ○博士課程の学位授与方針（ディプロマポリシー）

### \*人間生活学専攻

人間生活学専攻では、自らの専門領域については言うまでもなく、関連分野を含めた広い領域についても大きな関心をもって勉学に努め、人間生活をめぐる心理臨床学、生活科学、社会科学の分野において、総合的、学際的視野にたつ人材の養成を目的とし、以下の学識・能力を有するに至ったものに博士（学術）の学位を授与する。

- ・自らの専門領域について深い学識と理解を有し、研究者・高度専門職業人として自立した活動をすることができる。
- ・新しい課題を解決することができる優れた研究能力を有することが、自らの研究成果によって証明できる。

## 12 教職課程の履修

大学において高等学校教諭（家庭）、（美術）、（英語）、（公民）・中学校教諭（家庭）、（美術）、（英語）・小学校教諭及び幼稚園教諭の一種免許状を取得している者で、高等学校教諭（家庭）、（美術）、（英語）、（公民）・中学校教諭（家庭）、（美術）、（英語）・小学校教諭及び幼稚園教諭の専修免許状を取得しようとする者は、教職課程に認定されている授業科目を24単位以上を履修しなければならない。本学研究科において取得できる免許状は、次のとおりとする。

児童学児童教育学専攻	小学校教諭専修免許状 幼稚園教諭専修免許状
健康栄養学専攻	高等学校教諭専修免許状（家庭） 中学校教諭専修免許状（家庭）
造形学専攻	高等学校教諭専修免許状（家庭） 中学校教諭専修免許状（家庭） 高等学校教諭専修免許状（美術） 中学校教諭専修免許状（美術）
英語・英語教育研究専攻	高等学校教諭専修免許状（英語） 中学校教諭専修免許状（英語）
臨床心理学専攻	高等学校教諭専修免許状（公民）
教育福祉学専攻	高等学校教諭専修免許状（公民）



## 13 衣料管理士専修（造形学専攻）

衣料管理士（TA）は（一社）日本衣料管理協会が認定している資格であり，TA養成大学において所定のカリキュラムを履修して卒業した学生にTA認定証が交付される。大学又は短期大学卒業時に取得できる衣料管理士1級・2級に加え，新たに2022年度より，より専門的なカリキュラムを履修した大学院修了者が取得できる「衣料管理士専修」が設置された。

衣料管理士は，繊維製品に関する素材および生産・流通・消費等の分野を体系的に学び，それらに関する基礎知識を身につけ，繊維製品の企画・設計／販売／品質保証／消費者対応について，豊富な知識と技術，知恵と工夫を活かして，人々に貢献するプロフェッショナルである。

### (1) 衣料管理士専修の取得要件

- ① 衣料管理士1級を取得していること
- ② 衣料管理士1級認定校における大学院での開設科目（実験・実習・演習を含む）で，「材料」「加工・整理」「企画・設計・生産」「流通・消費」の4領域のうち，2領域以上から8単位以上修得すること
- ③ 衣料管理士1級認定校における大学院で，修士の学位を取得すること

### (2) 開設科目及び単位

造形学専攻での開設科目は，次の通りである。

領域	科目	単位数
材料	被服材料学特論	2
	被服材料学演習	2
	被服科学実験	1
加工・整理	被服管理学特論	2
	被服管理学演習	2
	繊維加工学特論	2
	繊維加工学演習	2
企画・設計・生産	被服構成学特論	2
	被服構成学演習	2
	被服構成学実験	1
	アパレル設計学特論	2
	アパレル設計学演習	2

## 14 臨床心理士・公認心理師（臨床心理学専攻）

### 1. 臨床心理士

#### (1) 臨床心理士の受験資格

臨床心理士に関しては、(財)日本臨床心理士資格認定協会による所定の規定（「臨床心理士」受験資格に関する大学院指定運用内規）により、その資格認定指定大学院研究科の専攻において、所定の科目および単位を修得した者がその受験資格を得る、とされている。

本大学院は、文学研究科心理教育学専攻（臨床心理学コース）が平成14年度から「臨床心理士指定第一種大学院」に指定され、人間生活学総合研究科臨床心理学専攻も引き続き、第一種大学院の指定を受けており、臨床心理学専攻を修了した者は、臨床心理士資格審査の受験有資格者となる。

#### (2) 必要履修科目、単位とその修得

上記の規定により、以下に示す科目および単位の修得がその受験資格として求められている。

##### 1) 開設科目及び単位

臨床心理学専攻での開設科目は、次のとおりである。

必修科目・単位：	臨床心理学特論	4単位
	臨床心理学面接特論Ⅰ	2単位
	臨床心理学面接特論Ⅱ	2単位
	臨床心理査定演習Ⅰ	2単位
	臨床心理査定演習Ⅱ	2単位
	臨床心理基礎実習	(2)単位
	臨床心理実習Ⅰ	(1)単位
	臨床心理実習Ⅱ	(1)単位
選択必修科目・単位：	A群 臨床心理統計法特論	4単位
	臨床心理学研究法特論	2単位
	B群 人格心理学特論	2単位
	認知心理学特論	2単位
	C群 社会病理学特論	2単位
	家族心理学特論	2単位
	D群 精神医学特論	2単位
	心身医学特論	2単位
	障がい児・者心理学特論	2単位
	E群 グループ・アプローチ特論	2単位
	発達臨床心理学特論	2単位

## 2) 修得方法

上記開設科目のうち、必修科目から8科目16単位、選択必修科目群（A, B, C, D, E）からそれぞれ2単位以上、計10単位以上、合計26単位以上を修得する。

必修科目・選択必修科目E群は、他の専攻からは受講できない。

## 3) 実習について

臨床心理基礎実習は1年次に、臨床心理実習Ⅰ・Ⅱは1年次10月より2年次にまたがって開講される。

## (3) 修士論文のテーマ・内容

上記の規定により、「修士論文のテーマと内容が臨床心理学に関するものであること」が求められている。

## 2. 公認心理師

### (1) 公認心理師の受験資格

公認心理師に関しては、公認心理師法に基づき、①～⑩の科目分野に含まれる科目を少なくとも1科目ずつ履修していれば、受験資格が得られる。

### (2) 必要履修科目、単位とその修得

臨床心理学専攻での開設科目は、次の通りである。

#### I. 主な職域の相談、助言、指導、その他援助に関する科目

- |                              |     |     |
|------------------------------|-----|-----|
| ① 精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開） | 2単位 | 必修※ |
| 心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）   | 2単位 | 必修※ |

※いずれか1科目必修

- |                                 |     |    |
|---------------------------------|-----|----|
| ② 障がい児・者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） | 2単位 | 選択 |
| ③ 学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）   | 2単位 | 選択 |
| ④ 社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）  | 2単位 | 選択 |
| ⑤ 産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）  | 2単位 | 選択 |

#### II. 観察分析、相談、助言、指導、その他の援助等についての理論科目

- |  |     |    |
|--|-----|----|
| ⑥ 臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）          | 2単位 | 選択 |
| ⑦ 臨床心理学面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）              | 2単位 | 選択 |
| ⑧ 家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践） | 2単位 | 選択 |
| ⑨ 生徒指導・教育相談・キャリア教育（心の健康教育に関する理論と実践）      | 2単位 | 選択 |

#### III. 心理実践実習（450時間以上）

- |                   |       |    |
|-------------------|-------|----|
| ⑩ 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習） | (1)単位 | 必修 |
|-------------------|-------|----|

## 15 大学院生研究助成制度

1. 人間生活学総合研究科に、大学院生の学会発表を奨励することを目的として、平成24年4月1日から、以下の大学院生研究助成制度を設ける。

- (1) 大学院生が国内の学会で発表者（講演者）として学会に参加する場合、学会参加費、交通費（学割額）、宿泊費等を全額助成する。
- (2) 大学院生が上記以外で国内の学会に参加する場合、学会参加費、交通費（学割額）、宿泊費等を年1回、5万円を限度として助成する。
- (3) 大学院生が海外の学会で発表者（講演者）として学会に参加する場合、学部の基準に準じ、学会参加費については全額、交通費（学割額）、宿泊費等の旅費については50%以内を助成する。
- (4) 助成する経費の範囲等については、国内出張規程（助手相当）に準じた学会参加費、交通費、宿泊費等の実費とする。なお、交通費は学割額とし、日当は除く。
- (5) 造形学専攻在学生の制作における、審査のある国内の作品展への出品および大学院生個人による自主的な国内での作品展を、国内学会での発表相当とみなし、出品料、運搬費等を、学会参加費、交通費等と同様に研究経費助成の対象とする。

審査のない国内の作品展への出品は、国内学会への参加と、審査のある海外の作品展への出品は、海外学会での発表とみなす。

出品料、作品運搬費等の助成申請金額の妥当性については、必要に応じ助成金額の是正を行うことがある。

- (6) 大学院生研究助成は、大学院生が所定の申請書に研究指導者の承認印を得て研究科長宛申請し、専攻主任会議、研究科委員会の承認により助成の可否を決定する。

造形学専攻の出品料、運搬費等の助成金申請金額の妥当性は、専攻主任会議で検討し、研究科委員会で決定する。

2. その他

- (1) 2回目以降の国内学会参加経費、助成対象外の海外学会発表経費についても一定の予算枠内で経費助成される制度がある。
- (2) 研究助成等の経費申請書の記入方法、経費支払手続方法等については、別途、大学院事務から連絡する。

## 16 東京家政大学大学院の院生に関する出産・育児休学取扱内規

1. 本学大学院の学生が、就学中に出産および1歳未満の子の育児のために就学が困難となった時には、就学时出産休学及び就学时育児休学を認める。この場合、当該休学の後、復学する予定となるものに限られる。

出産休学および育児休学の対象期間は、出産予定の6週間前から当該育児対象の子が1歳に到達する日までの間で、当該年度の半期単位の枠で取得することができる。

2. 上記の休学期間は、授業料、施設設備維持充実費等の学納金は免除される。但し、学生証の発行等学事関連諸経費は実費徴収とする。
3. その他の事項については、大学院学則による。

## 17 大学院生の学会発表, 展覧会開催

2023年度 東京家政大学 大学院生 学会発表、学会参加

学会名 (開催年月日)	発表題目 (筆頭発表者)
<b>人間生活学専攻</b>	
第77回日本栄養・食糧学会大会 開催日：2023年5月12日～14日	コラーゲンペプチドの消化酵素分解によって生じる短鎖ヒドロキシプロリン含有ペプチドとその分解機構
INTERNATIONAL ASSOCIATION OF GERONTOLOGY & GERIATRICS Asia/Oceania Regional Congress 2023 開催日：2023年6月12日～14日	Effect of Cranberry Juice Drinking on Urethral Balloon Catheter Obstruction
第55回日本結合組織学会学術大会 開催日：2023年6月24日～25日	タコI型コラーゲンの変性温度を決定するアミノ酸・配列位置の探索
日本食品科学工学会第70回記念大会 開催日：2023年8月24日～26日	コラーゲン由来環状ペプチドの生体内生成機構の解明
	発酵によって変化する韃靼そば茶中の成分と抗酸化能
日本食生活学会第67回大会 開催日：2023年10月7日	マスタードシードによる食品中糖質の分解活性
日本看護技術学会第21回学術集会 開催日：2023年10月14日～15日	ベッド上腹臥位における胸部クッションの挿入が換気に与える影響
日本乳幼児教育学会第33回大会 開催日：2023年12月9日～10日	カリフォルニア州における幼児理解と評価の教員研修の動向 ～DRDP評価ツールを用いた教員研修システム～
The International Society for Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF) 2023 開催日：2023年12月10日～13日	Mechanism of Hydroxyproline-containing Peptide Cyclization after Ingesting of Collagen Peptide
第20回ファンクショナルフード学会学術集会 開催日：2024年1月19日～20日	環状ジペプチド合成法の検討と牛乳および豆乳中の環状ジペプチド検出
日本食品科学工学会令和6年度関東支部大会 開催日：2024年3月2日	コラーゲンペプチド摂取後の体内で増加するPro-Hypの皮膚線維芽細胞内への移行
<b>健康栄養学専攻</b>	
日本家政学会第75回大会 開催日：2023年5月26日～28日	塩麴添加食パン生地の製パン特性
Association for Behavior Analysis International - 49th Annual Convention 開催日：2023年5月27日～29日	Synchronization of Rhythmic Operant Reaching and Brain Stimulation: Toward the Integration of Behavioral and Neural Intervention in Rehabilitation
	Would EEG Be a Precursor of The Response to Human Emotion? Toward The Basic Mechanism of Respondent Conditioning
	Adjustment of physical guidance trajectory in response to behavioral disturbance in upper limb
	Neural Correlates of Facilitation and Inhibition in Go/No-Go Procedure in Discriminative Operant Conditioning



学会名（開催年月日）	発表題目（筆頭発表者）
日本食品科学工学会第70回記念大会 開催日：2023年8月24日～26日	凍結前処理としてのマイクロ波減圧乾燥が青果物の品質に及ぼす影響
	給与飼料の玄米配合率によって変化する鶏卵の $\gamma$ -オリザノール含有量
第70回日本栄養改善学会学術総会 開催日：2023年9月1日～3日	高校相撲選手の食習慣の改善に対する行動変容ステージと食行動・食態度・食環境の特徴
	玄米飯および玄米-白米混合飯の摂取時における咀嚼回数・筋活動量と唾液分泌量の関係
日本スポーツ栄養学会第9回大会 開催日：2023年9月9日～10日	目的意識による高校相撲選手の食行動・食態度・けがの特徴
日本食生活学会第67回大会 開催日：2023年10月7日	ケールを原料とした青汁の抗酸化活性とその関与成分
第57回日本作業療法学会 開催日：2023年11月10日～12日	小脳に対する交流電気刺激が両手の運動リズムに及ぼす影響
第18回日本給食経営管理学会学術総会 開催日：2023年11月11日～12日	災害時の学校給食における給食提供過程の課題
第26回家政学関連卒業論文・修士論文発表会 開催日：2024年2月15日	パッククッキングにより調製した各種玄米飯利用による咀嚼特性および唾液分泌量
	災害時の学校給食における給食提供過程の課題
第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会 開催日：2024年3月21日～23日	造血幹細胞移植前後の栄養状態と移植後の経過に関する前向き観察研究
<b>造形学専攻</b>	
日本家政学会第75回大会 開催日：2023年5月26日～28日	和裁における「縫い目」の評価指標の解明
	セルロースナノクリスタルを用いた綿ニット布の機能化
	展示方法の違いが劣化した文化財染織品に及ぼす影響
日本衣服学会第74回年次大会 開催日：2023年10月28日	和裁における「縫い目」の評価と学習効果
2023年繊維学会秋季研究発表会 開催日：2023年11月27日～28日	セルロースナノクリスタル加工糸を用いたニット布の作製と消臭性
<b>英語・英語教育研究専攻</b>	
第52回中部地区英語教育学会岐阜大会 開催日：2023年6月24日～25日	中学校英語授業における教師と生徒のインタラクションの変容過程
第23回小学校英語教育学会（JES）近畿・京都大会 開催日：2023年7月22日～23日	語彙・教材研究で円滑な小中連携をはかる英語専科会での議論から
英語授業研究学会第34回全国大会 開催日：2023年8月11日～12日	中学校英語授業において一人ひとりの生徒からいかに発話を引き出すか ―教師と生徒のインタラクションにおける発問の工夫

学会名（開催年月日）	発表題目（筆頭発表者）
<b>臨床心理学専攻</b>	
第15回日本不安症学会学術大会 開催日：2023年5月19日～20日	恐怖症を測定する尺度の臨床的妥当性の検討
日本健康心理学会第36回大会 開催日：2023年12月2日～3日	女子大学生における失恋時の対処方略と過剰適応の関連の検討
	コロナ禍における女子大学生の心理的ストレスについて — 認知的評価とコーピングに着目して
	女子大学生のグリットを育むプロセスの探索的研究 — 半構造化面接を通して—

### 展覧会（造形学専攻）

個展「Kopfkino」 開催日：2023年7月4日～6日	VR表現，映像プロジェクション等（作品発表）
3人展「Protopia」 開催日：2023年11月14日～19日	陶芸，平面表現等（作品発表）
個展「きっと、どこかに」 開催日：2023年12月16日～20日	鍛金技法における，無形物の表現（作品発表）



B. 令和6（2024）年度教育課程表  
各専攻の授業科目，単位数，担当教員

1 修士課程

(1) 児童学児童教育学専攻

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考
保育学分野	保育学特論	2	選	教授 榎沢良彦	幼専
	保育学演習	2	選	教授 戸田雅美	幼専
	保育史特論	2	選	講師(兼任) 小久保圭一郎	幼専
	保育心理学特論	2	選	准教授 堀科	幼専
	児童文化特論	2	選	教授 是澤優子	幼・小専
	児童文化演習	2	選	非開講	幼・小専
保育実践学分野	保育実践演習	2	選	教授 戸田雅美	幼専
	障がい児保育特論	2	選	講師(兼任) 山田陽子	幼専
	保育マネジメント特論	2	選	講師(兼任) 田澤里喜	幼専
	保育内容実践研究(環境)	2	選	兼任講師 佐藤康富	幼専
	保育内容実践研究(ことば)	2	選	教授 戸田雅美	幼専
	保育内容実践研究(表現)	2	選	教授 花輪充	幼専
	保育内容実践研究(健康)	2	選	兼任講師 鈴木隆	幼専
保育内容実践研究(人間関係)	2	選	教授 岩立京子	幼専	
育児支援学分野	育児支援学特論	2	選	講師(兼任) 太田光洋	
	育児支援学演習	2	選	講師(兼任) 太田光洋	
	児童福祉学特論	2	選	教授 岩崎美智子	
	児童福祉学演習	2	選	准教授 松本なるみ	
	保育カウンセリング特論	2	選	准教授 武田洋子	幼専
	保育相談演習	2	選	教授 金城悟	幼専
	家族関係学特論	2	選	兼任講師 平野順子	
子ども臨床学分野	子ども臨床学特論	2	選	客員教授 宮島祐崇 准教授 阿部	幼専
	子ども臨床学演習	2	選	非開講	幼専
	小児健康保健学特論	2	選	客員教授 及川郁子	幼・小専
	小児健康保健学演習	2	選	教授 高野貴子 教授 細井香	幼・小専
	発達心理学特論	2	選	教授 野口隆子	幼専
	子ども芸術療法特論	2	選	教授 池森隆虎 教授 保坂遊子 准教授 佐藤邦子	幼専
	子ども芸術療法演習	2	選	教授 池森隆虎 教授 保坂遊子 准教授 佐藤邦子	幼専

区分	授 業 科 目	単位数	必選別	担 当 教 員	備 考
教育実践学分野	教育実践演習（国語）	2	選	教 授 阿 部 藤 子	小専
	教育実践演習（算数）	2	選	教 授 石 田 淳 一	小専
	教育実践演習（社会）	2	選	准教授 二 川 正 浩	小専
	教育実践演習（理科）	2	選	客員教授 大 澤 力	小専
	教育実践演習（音楽）	2	選	教 授 笹 井 邦 彦	小専
	教育実践演習（図画工作）	2	選	教 授 結 城 孝 雄	小専
	教育実践演習（家庭）	2	選	兼任講師 平 野 順 子	小専
学校教育学分野	教 育 学 特 論	2	選	講師（兼任） 藤 井 穂 高	幼・小専
	教 育 心 理 学 特 論	2	選	教 授 平 山 祐 一 郎	幼・小専
	学 級 経 営 特 論	2	選	特任教授 半 澤 嘉 博	幼・小専
	道 徳 教 育 演 習	2	選	非開講	幼・小専
	特 別 支 援 教 育 演 習	2	選	特任教授 半 澤 嘉 博	幼・小専
	情 報 処 理 演 習 I	2	選	兼任講師 佐 藤 隆 弘	幼・小専
	情 報 処 理 演 習 II	2	選	教 授 平 山 祐 一 郎	幼・小専
研 究 指 導	特 別 研 究	10	必	教 授 花 輪 充 岩崎美智子 岩立 京子 榎沢 良彦 金城 悟 是澤 優子 笹井 邦彦 高野 貴子 戸田 雅美 野口 隆子 保坂 遊 細井 香 平山祐一郎 結城 孝雄 特任教授 半澤 嘉博 准教授 阿部 崇 武田 洋子 堀 科	

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。

## (2) 健康栄養学専攻

区分	授 業 科 目	単 位 数	必 選 別	担 当 教 員	備 考
フーズサイエンス分野	食 品 学 特 論	2	選	特任教授 都 築 和香子	中・高専
	食 品 学 演 習	2	選	特任教授 都 築 和香子	中・高専
	食 品 機 能 学 特 論	2	選	兼任講師 重 村 泰 毅	中・高専
	食 品 機 能 学 演 習	2	選	兼任講師 重 村 泰 毅	中・高専
	H A C C P 特 論	2	選	講師(兼任) 森 田 幸 雄	中・高専
	H A C C P 演 習	2	選	講師(兼任) 森 田 幸 雄	中・高専
	食 安 全 学 特 論	2	選	教 授 佐 藤 吉 朗	中・高専
	食 安 全 学 演 習	2	選	教 授 佐 藤 吉 朗	中・高専
	食 品 産 業 特 論	2	選	教 授 鍋 谷 浩 志	中・高専
	食 品 産 業 演 習	2	選	教 授 鍋 谷 浩 志	中・高専
	食 品 開 発 学 特 論	2	選	講師(兼任) 設 楽 弘 之	
	食 品 評 価 特 論	2	選	非開講	中・高専
	調 理 科 学 特 論	2	選	教 授 小 林 理 恵	中・高専
	調 理 科 学 演 習	2	選	教 授 小 林 理 恵	中・高専
	官 能 評 価 特 論	2	選	講師(兼任) 笠 松 千 夏	中・高専
	分 子 栄 養 学 特 論	2	選	教 授 大 西 淳 之	中・高専
分 子 栄 養 学 演 習	2	選	教 授 大 西 淳 之	中・高専	
ライフサイエンス分野	遺 伝 子 診 断 特 論	2	選	教 授 藤 森 文 啓	中・高専
	遺 伝 子 診 断 演 習	2	選	教 授 藤 森 文 啓	中・高専
	統 合 生 理 学 特 論	2	選	講師(兼任) 林 恵 子	中・高専
	統 合 生 理 学 演 習	2	選	講師(兼任) 林 恵 子	中・高専
	生 化 学 特 論	2	選	特任教授 小 西 康 子	中・高専
	生 化 学 演 習	2	選	非開講	中・高専
	食 環 境 特 論	2	選	准 教 授 赤 石 記 子	中・高専
	食 環 境 演 習	2	選	准 教 授 赤 石 記 子 講師(兼任) 永 塚 規 衣	中・高専
	機 器 分 析 化 学 特 論	2	選	教 授 池 田 壽 文	中・高専
	機 器 分 析 化 学 演 習	2	選	教 授 池 田 壽 文	中・高専
	臨 床 栄 養 学 特 論	2	選	非開講	中・高専
	臨 床 栄 養 学 演 習	2	選	非開講	中・高専
	病 態 栄 養 学 特 論	2	選	教 授 尾 形 真 規 子	中・高専
病 態 栄 養 学 演 習	2	選	教 授 尾 形 真 規 子	中・高専	

区分	授 業 科 目	単位数	必選別	担 当 教 員	備 考
ヘルスサイエンス分野	臨床栄養学栄養療法特論	2	選	講師(兼任) 勝川史憲	中・高専
	臨床栄養学栄養療法演習	2	選	教授 田中寛	中・高専
	スポーツ栄養学特論	2	選	講師(兼任) 川野因	
	N S T 特論	2	選	講師(兼任) 佐藤弘	中・高専
	公衆衛生学特論	2	選	教授 丸山浩	中・高専
	公衆衛生学演習	2	選	教授 丸山浩	中・高専
	公衆栄養学特論	2	選	非開講	中・高専
	公衆栄養学演習	2	選	講師(兼任) 梶忍 講師(兼任) 秦希久子	中・高専
	給食経営学マネジメント特論	2	選	講師(兼任) 名倉秀子	中・高専
	給食経営学マネジメント演習	2	選	講師(兼任) 榎本真理	中・高専
	基礎疫学	2	選	講師(兼任) 山口美輪	中・高専
	ロコモ・フレイル特論	2	選	特任教授 清水順市	
	ロコモ・フレイル演習	2	選	教授 齊藤展士 特任教授 清水順市 准教授 磯直樹	
	ニューロリハビリテーション特論	2	選	教授 下田信明 教授 鈴木誠	
リハビリテーション関連特論	2	選	教授 米津亮 准教授 斎藤和夫 准教授 岡部拓大		
研究指導	特別研究	10	必	教授 尾形真規子 池田 壽文 大西 淳之 小林 理恵 佐藤 吉朗 下田 信明 鈴木 誠 鍋谷 浩志 藤森 文啓 米津 亮 特任教授 小西 康子 清水 順市 都築和香子 准教授 赤石 記子	

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。

(3) 造形学専攻

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考		
服飾美術分野	被服科学	被服材料学特論	2	選	教授 濱田仁美	中・高専(家庭) 衣管士専(材料)	
		被服材料学演習	2	選	教授 濱田仁美	中・高専(家庭) 衣管士専(材料)	
		被服管理学特論	2	選	教授 葛原亜起夫	中・高専(家庭) 衣管士専(加工・整理)	
		被服管理学演習	2	選	教授 葛原亜起夫	中・高専(家庭) 衣管士専(加工・整理)	
		繊維加工学特論	2	選	非開講	中・高専(家庭) 衣管士専(加工・整理)	
		繊維加工学演習	2	選	非開講	中・高専(家庭) 衣管士専(加工・整理)	
		被服科学実験	1	選	教授 濱田仁美	中・高専(家庭) 衣管士専(材料)	
	服飾造形学	被服構成学特論	2	選	教授 潮田ひとみ	中・高専(家庭) 衣管士専(企画・設計・生産)	
					教授 高水伸子		
		被服構成学演習	2	選	教授 潮田ひとみ	中・高専(家庭) 衣管士専(企画・設計・生産)	
					教授 高水伸子		
		被服構成学実験	1	選	教授 潮田ひとみ	中・高専(家庭) 衣管士専(企画・設計・生産)	
					教授 高水伸子		
		アパレル設計学特論	2	選	教授 田中早苗	中・高専(家庭) 衣管士専(企画・設計・生産)	
		アパレル設計学演習	2	選	教授 田中早苗	中・高専(家庭) 衣管士専(企画・設計・生産)	
		和服造形学特論	2	選	非開講	中・高専(家庭)	
		和服造形学演習	2	選	非開講	中・高専(家庭)	
	服飾工芸演習	2	選	教授 大塚有里	中・高専(家庭)		
	服飾デザイン学	服飾文化史特論	2	選	准教授 沢尾 絵	中・高専(家庭)	
		服飾文化史演習Ⅰ	2	選	准教授 沢尾 絵	中・高専(家庭)	
		服飾文化史演習Ⅱ	2	選	准教授 沢尾 絵	中・高専(家庭)	
		染織史特論	2	選	講師(兼任) 須藤良子	中・高専(家庭)	
		服飾デザイン特論	2	選	教授 石田恭嗣	中・高専(家庭)	
		服飾デザイン演習	2	選	教授 石田恭嗣	中・高専(家庭)	
		色彩表現論	2	選	教授 石田恭嗣	中・高専(家庭)	
	服飾デザイン表現演習	2	選	非開講	中・高専(家庭)		
	造形表現分野	メディア表現	デジタルデザイン特論	2	選	准教授 宮本真帆	中・高専(美術)
			デジタルデザイン演習Ⅰ	2	選	准教授 宮本真帆	中・高専(美術)
			デジタルデザイン演習Ⅱ	4	選	准教授 宮本真帆	中・高専(美術)
			映像メディアアート特論	2	選	教授 兼古昭彦	中・高専(美術)
映像メディアアート演習Ⅰ			2	選	教授 兼古昭彦	中・高専(美術)	
映像メディアアート演習Ⅱ			4	選	教授 兼古昭彦	中・高専(美術)	
表現と社会		育ちのための表現特論	2	選	教授 岡田京子	中・高専(美術)	
		育ちのための表現演習Ⅰ	2	選	教授 岡田京子	中・高専(美術)	
		育ちのための表現演習Ⅱ	4	選	教授 岡田京子	中・高専(美術)	

区分	授 業 科 目	単位数	必選別	担 当 教 員	備 考	
造形表現分野	美術史	美術史特論	2	選	期限付准教授 和田 菜穂子	中・高専(美術)
		美術史演習Ⅰ	2	選	期限付准教授 和田 菜穂子	中・高専(美術)
		美術史演習Ⅱ	4	選	期限付准教授 和田 菜穂子	中・高専(美術)
	工芸	陶芸特論	2	選	教授 高田 三平	中専(美術)
		陶芸演習Ⅰ	2	選	教授 高田 三平	中専(美術)
		陶芸演習Ⅱ	4	選	教授 高田 三平	中専(美術)
		金工・ジュエリー特論	2	選	教授 押元 信幸	中専(美術)
		金工・ジュエリー演習Ⅰ	2	選	教授 押元 信幸	中専(美術)
		金工・ジュエリー演習Ⅱ	4	選	教授 押元 信幸	中専(美術)
		染色造形特論	2	選	教授 早瀬 郁恵	中専(美術)
		染色造形演習Ⅰ	2	選	教授 早瀬 郁恵	中専(美術)
		染色造形演習Ⅱ	4	選	教授 早瀬 郁恵	中専(美術)
		織物特論	2	選	講師 大木 敦子	中専(美術)
		織物演習Ⅰ	2	選	講師 大木 敦子	中専(美術)
		織物演習Ⅱ	4	選	講師 大木 敦子	中専(美術)
	平面表現	絵画特論	2	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術)
		絵画演習Ⅰ	2	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術)
		絵画演習Ⅱ	4	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術)
		グラフィックデザイン特論	2	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術)
		グラフィックデザイン演習Ⅰ	2	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術)
		グラフィックデザイン演習Ⅱ	4	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術)
	空間表現	住環境特論	2	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭)
		住環境演習Ⅰ	2	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭)
		住環境演習Ⅱ	4	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭)
		インテリアデザイン特論	2	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭)
		インテリアデザイン演習Ⅰ	2	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭)
		インテリアデザイン演習Ⅱ	4	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭)
研究指導	特別研究・制作	10	必	教授 有馬十三郎 石田 恭嗣 潮田ひとみ 岡田 京子 押元 信幸 兼古 昭彦 葛原亜起夫 高田 三平 高水 伸子 手嶋 尚人 濱田 仁美 早瀬 郁恵 准教授 豊田 聡朗 宮本 真帆 山藤 仁		

※衣料管理士専修については、備考欄に記載した授業科目のうち、「材料」「加工・整理」「企画・設計・生産」の2領域以上から8単位以上を履修する。

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。



#### (4) 英語・英語教育研究専攻

区分	授 業 科 目	単 位 数	必 選 別	担 当 教 員	備 考
英語教育分野	小学校英語教育特論	4	選	特任准教授 吉野 康子	中・高専
	英語教育実践特論Ⅰ	4	選	教 授 太田 洋	中・高専
	英語教育実践特論Ⅱ	4	選	教 授 太田 洋	中・高専
	第二言語習得研究Ⅰ	4	選	准教授 田頭 憲二	中・高専
	第二言語習得研究Ⅱ	4	選	准教授 田頭 憲二	中・高専
	英語技能指導法演習	4	選	講師(兼任) ニヴェディダ・クマリ	中・高専
	国際英語技能指導法研究	4	選	講師(兼任) ニヴェディダ・クマリ	中・高専
	英語教育課程特論	4	選	講師(兼任) 齋藤 嘉則	中・高専
	英語教育評価特論	4	選	講師(兼任) 長沼 君主	中・高専
	英語教育リサーチメソッド	4	選	講師(兼任) 森田 光宏	中・高専
メディア教育研究	4	選	教 授 小池 新	中・高専	
英語・英語文学分野	英 語 学 特 論	4	選	准教授 根本 貴行	中・高専
	英 語 学 研 究	4	選	准教授 鈴木 繁幸	中・高専
	英 文 学 特 論	4	選	教 授 石塚 倫子	中・高専
	米 文 学 特 論	4	選	准教授 関根 全宏	中・高専
	英 文 学 研 究	4	選	講師(兼任) 向井 秀忠	中・高専
	米 文 学 研 究	4	選	准教授 並木 有希	中・高専
	英米文化研究	4	選	准教授 並木 有希	中・高専
	歴史言語学特論	4	選	教 授 横田 由美	中・高専
異文化コミュニケーション研究	4	選	准教授 五十嵐 淳子	中・高専	
共通分野	英語論文技法演習	4	選	准教授 レナード・ダニエル・フーパー	中・高専
研究指導	特 別 研 究	4	必	教 授 石塚 倫子 太田 洋 准教授 小池 新 横田 由美 鈴木 繁幸 田頭 憲二 根本 貴行	

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。

(5) 臨床心理学専攻

区分	授 業 科 目	単 位 数	臨床心理士 必選別	公認心理師 必選別及び 科目分野	担 当 教 員	備 考
臨床心理学基礎分野	臨床心理学特論	4	必		教授 福井 至	高専
	臨床心理学面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	2	必	選⑦	教授 岡島 義	高専
	臨床心理学面接特論Ⅱ	2	必		教授 杉山 雅宏	高専
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	必	選⑥	准教授 温泉 美雪	高専
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	必		教授 岡島 義美 講師(兼任) 中村 聡	高専
	臨床心理基礎実習	(2)	必		教授 三浦 正江 准教授 五十嵐 友里 講師(兼任) 守部 碧	高専
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	(1)	必	必⑩	教授 杉山 雅宏 教授 岡島 義至 教授 福井 正江 教授 三浦 友里 准教授 五十嵐 美雪 准教授 温泉 美雪	高専
	臨床心理実習Ⅱ (多様な形式のスーパービジョンを含む)	(1)	必		教授 杉山 雅宏 教授 岡島 義至 教授 福井 正江 准教授 三浦 友里 准教授 五十嵐 美雪 准教授 温泉 美雪	高専
臨床心理学専門分野	臨床心理統計法特論	4	選 (A群科目)		講師(兼任) 上野 雄己	高専
	臨床心理学研究法特論	2	選 (A群科目)		講師(兼任) 飯村 周平 講師(兼任) 田中 元基	高専
	人格心理学特論	2	選 (B群科目)		講師(兼任) 嶋田 洋徳	高専
	認知心理学特論	2	選 (B群科目)		講師(兼任) 高橋 秀明	高専
	社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (C群科目)	選④	講師(兼任) 太田 大介	高専
	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	選 (C群科目)	選⑧	講師(兼任) 吉川 延代	高専
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	必①	講師(兼任) 中野 正寛	高専
	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	必①	講師(兼任) 風間 真理子	高専
	障がい児・者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	選②	講師(兼任) 本多 潤子	高専
	グループ・アプローチ特論	2	選 (E群科目)		教授 杉山 雅宏	高専
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2		選③	講師(兼任) バーンズ 亀山 静子	高専
	発達臨床心理学特論	2	選 (E群科目)		講師(兼任) 平野 真理	高専
	産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2		選⑤	講師(兼任) 松本 真作	高専
生徒指導・教育相談・キャリア教育 (心の健康教育に関する理論と実践)	2		選⑨	教授 三浦 正江 講師(兼任) 金子 恵美子	高専	
研究指導	特別研究	4	必		教授 杉山 雅宏 井上 俊哉 岡島 義 福井 至 三浦 正江 准教授 五十嵐 友里 石井 国雄	

※臨床心理学専門分野では、必修8科目の他、A群科目からE群科目の5群それぞれ1科目2単位以上を必ず履修する。  
 ※公認心理師については、①～⑩の科目分野に含まれる科目を少なくとも1科目ずつ履修していれば、受験資格が得られる。(⑩はいずれか1科目必修)  
 ※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。  
 ※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。  
 ※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。



## (6) 教育福祉学専攻

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考
生涯学習・社会教育分野	生涯学習学特論	2	選	准教授 宮地孝宜	高専
	生涯学習学演習	2	選	准教授 宮地孝宜	高専
	社会教育学特論	2	選	教授 白木賢信	高専
	人間教育学特論	2	選	教授 白木賢信	高専
	教育福祉学特論	2	選	客員教授 井森澄江	高専
	学校カウンセリング演習	2	選	講師(兼任) パーンズ亀山静子	高専
	障がい者教育特論	2	選	兼任講師 半澤嘉博	高専
社会福祉学分野	社会福祉学特論Ⅰ	4	選	教授 平戸ルリ子	高専
	社会福祉学特論Ⅱ	2	選	教授 田中恵美子	高専
	社会福祉学特論Ⅲ	2	選	教授 松岡洋子	高専
	精神保健福祉特論	4	選	准教授 福富律	高専
	スクールソーシャルワーク特論	2	選	講師(兼任) 澁谷昌史	高専
	現代家族法特論	2	選	非開講	高専
心理学分野	発達心理学特論	4	選	客員教授 井森澄江	高専
	臨床心理学特論	2	選	准教授 山崎洋子	高専
	心理学特論	2	選	准教授 佐藤隆弘	高専
	教育評価・測定法	2	選	兼任講師 石井国雄	高専
	検査法演習	2	選	客員教授 井森澄江	高専
	高齢者心理学特論	2	選	非開講	高専
研究法分野	社会調査法Ⅰ	2	選	客員教授 山本和人	高専
	社会調査法Ⅱ	2	選	客員教授 山本和人	高専
	心理学研究法Ⅰ	2	選	客員教授 井森澄江	高専
	心理学研究法Ⅱ	2	選	客員教授 井森澄江	高専
研究指導	特別研究	10	必	教授 松岡洋子 白木賢信 田中恵美子 平戸ルリ子 准教授 佐藤隆弘	

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。

## 2 博士課程

### (1) 人間生活学専攻

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考
心理臨床学分野	発達臨床心理学特論	2	選	非開講	
	臨床心理学特論	2	選	教授 福井 至	
	カウンセリング特論	2	選	教授 杉山 雅宏	
	心理療法特論	2	選	教授 三浦 正江	
	統計解析特論	2	選	講師(兼任) 上野 雄己	
人間発達学分野	発達教育心理学特論	2	選	教授 平山 祐一郎	
	発達保健学特論	2	選	客員教授 宮島 祐	
				客員教授 及川 郁子	
	発達栄養学特論	2	選	非開講	
	人類遺伝学特論	2	選	教授 高野 貴子	
	保育学特論	2	選	教授 戸田 雅美 教授 榎沢 良彦	
	育児支援学特論	2	選	教授 岩崎 美智子	
	臨床保育学特論	2	選	教授 岩立 京子 教授 野口 隆子 教授 細井 香 客員教授 宮島 祐	
特任教授 半澤 嘉博					
生活環境学分野	衣生活環境学特論	2	選	教授 潮田 ひとみ	
	衣生活文化特論	2	選	准教授 沢尾 絵	
	生命情報学特論	2	選	教授 藤森 文啓	
	住生活環境学特論	2	選	講師(兼任) 川上 裕司	
	生物環境学特論	2	選	講師(兼任) 森田 幸雄	
	児童文化環境学特論	2	選	教授 是澤 優子	
	児童環境学特論	2	選	客員教授 大澤 力	
生活材料学分野	衣生活材料学特論	2	選	教授 濱田 仁美	
	食品材料評価学特論	2	選	非開講	
	食品材料利用学特論	2	選	教授 小林 理恵	
	機能性食品素材開発学特論	2	選	教授 佐藤 吉朗	
	分子生物学特論	2	選	教授 大西 淳之	
	生体材料学特論	2	選	教授 池田 壽文	
	酵素学特論	2	選	特任教授 小西 康子	
	食品材料工学特論	2	選	教授 鍋谷 浩志	
	食品材料プロセス特論	2	選	准教授 赤石 記子	
機能性食品学特論	2	選	兼任講師 重村 泰毅		

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考
生活管理学分野	被服管理学特論	2	選	教授 葛原 亜起夫	
	臨床栄養管理学特論	2	選	非開講	
	代謝栄養管理学特論	2	選	教授 尾形 真規子	
	健康管理学特論	2	選	非開講	
	食品管理学特論	2	選	非開講	
	生活情報処理特論	2	選	非開講	
	病態代謝管理学特論	2	選	講師(兼任) 勝川 史憲	
	ロコモ・フレイル特論	2	選	特任教授 清水 順市	
	リハビリテーション科学特論	2	選	教授 鈴木 誠	
研究指導	特別研究		必	教授 藤森 文啓 池田 壽文 井上 俊哉 岩崎美智子 岩立 京子 潮田ひとみ 榎沢 良彦 大西 淳之 尾形真規子 小林 理恵 佐藤 吉朗 杉山 雅宏 鈴木 誠 高野 貴子 戸田 雅美 鍋谷 浩志 濱田 仁美 平山祐一郎 福井 至 三浦 正江 特任教授 小西 康子 清水 順市 半澤 嘉博 准教授 赤石 記子	

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部に在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。

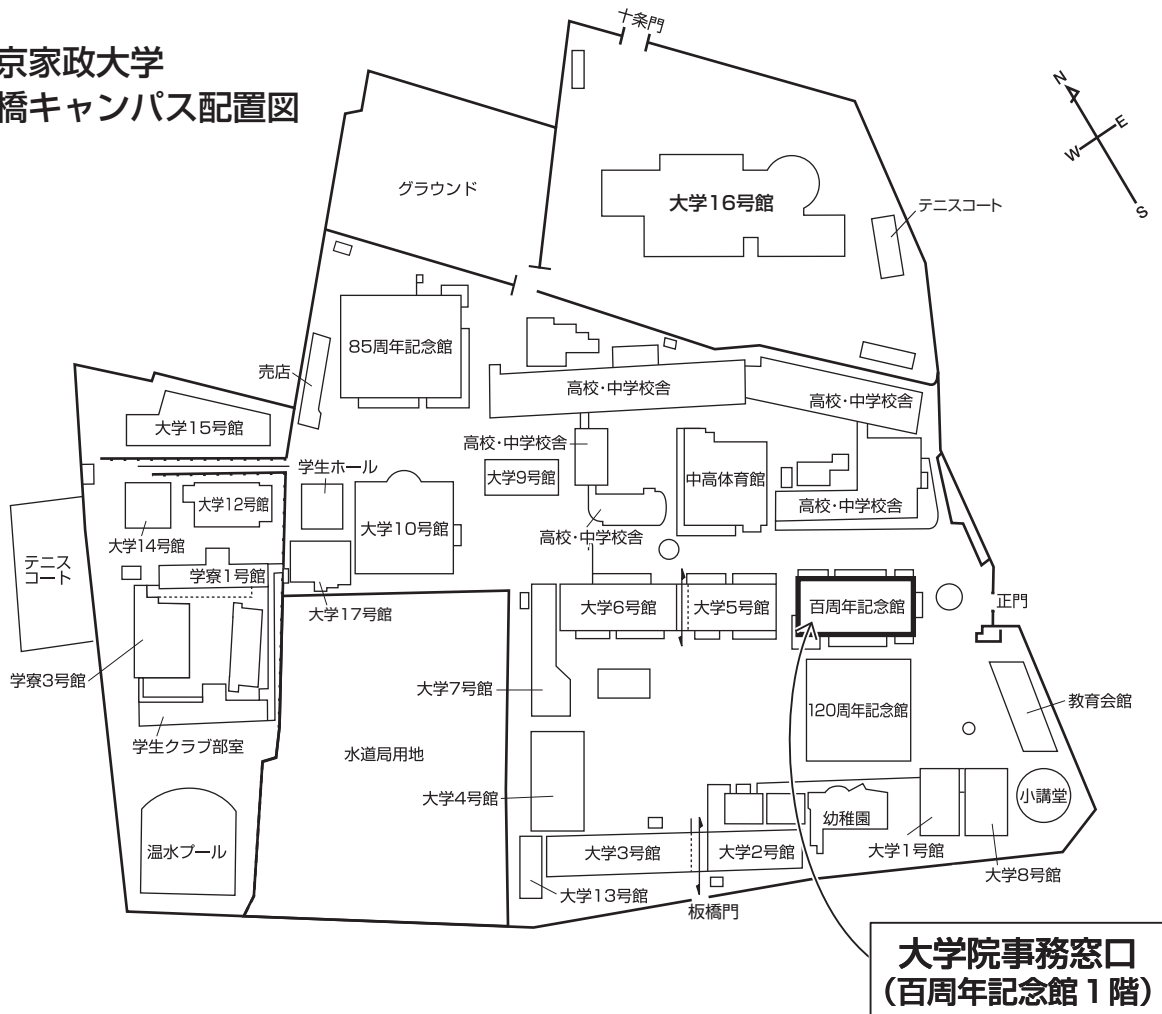
### 3 大学院共通科目（修士課程・博士課程）

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考
共通分野	論文作成のための統計解析入門	2	選	准教授 石井 国雄 講師(兼任) 松本 真作	
	プレゼンテーション論	2	選	非開講	
	アカデミック・ライティング	2	選	教授 石塚 倫子 准教授 根本 貴行 准教授 ヴィンセント・サミュエル・リード	

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

### Ⅲ. 東京家政大学板橋キャンパス配置図・大学院事務窓口

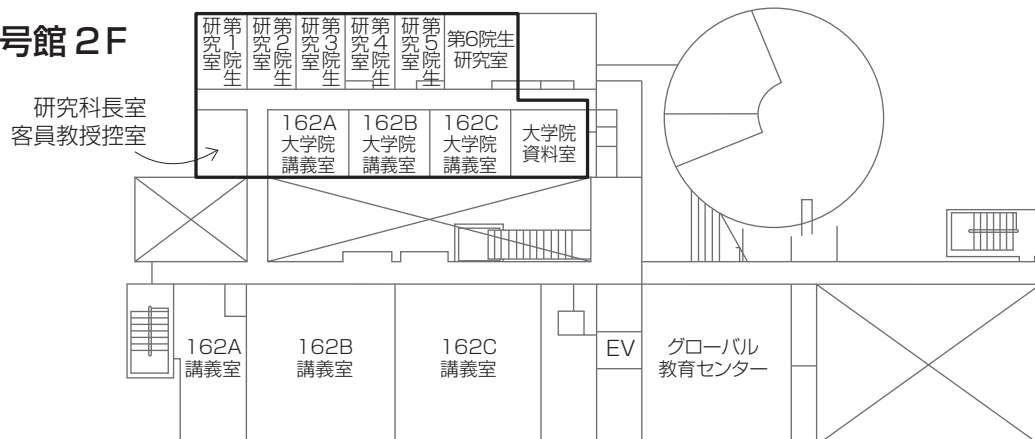
#### 東京家政大学 板橋キャンパス配置図



#### 教育支援センター学修支援課大学院

大学院事務窓口は、百周年記念館 1 F 教育支援センターにあります。

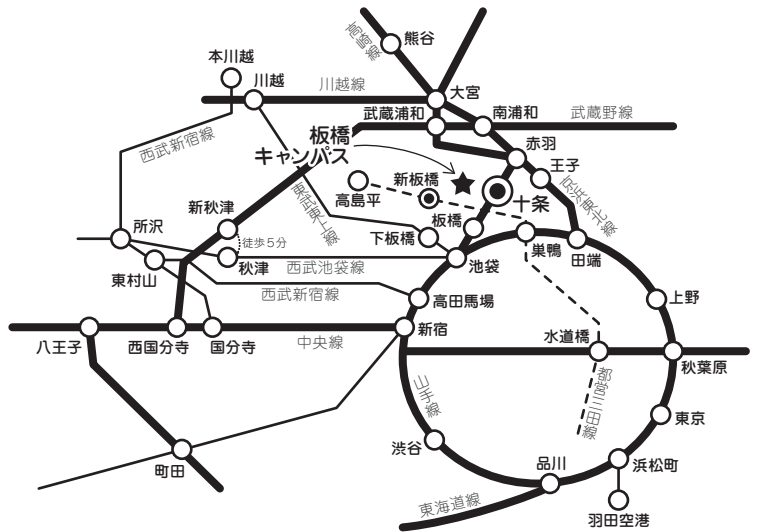
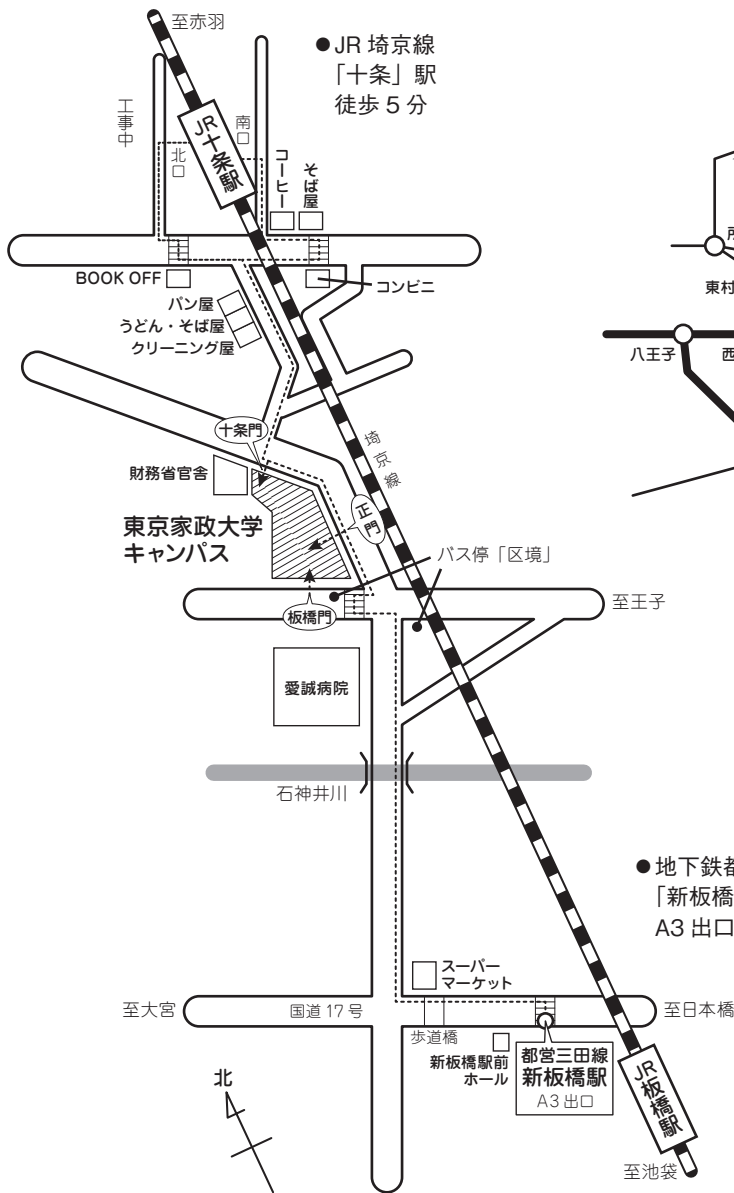
#### 大学16号館 2F



# 板橋キャンパスまでの最寄駅からの地図

JR埼京線 十条駅 利用がもっとも便利です。 所要時間…徒歩5分

## 板橋キャンパスへのアクセス



### ■ 問合せ先

東京家政大学教育支援センター学修支援課大学院

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1

電話 03-3961-3473 FAX 03-3961-5260

メールアドレス

daigakuin@tokyo-kasei.ac.jp

ホームページアドレス

<https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/graduate/index.html>

- JR 埼京線「十条駅」下車 徒歩 5分
- 地下鉄都営三田線「新板橋駅」下車 徒歩 12分
- JR 京浜東北線「東十条駅」下車 徒歩 15分
- JR「王子駅」より国際興業バス「板橋駅」行にて約7分、バス停「区境」下車 徒歩 1分

ホームページはこちらからも  
ご覧いただけます。 →



*Graduate School of Tokyo Kasei University*